

京都市
青少年・若者に関する意識行動と
思春期保健に関する調査
【結果報告書】
（概要版）

令和元年 6 月

京都市

1 調査概要

(1) 目的

青少年の意識や生活状況等について現状を把握し、今後の本市の青少年施策の充実に向けた基礎資料とすること。

(2) 調査設計

調査対象者：市内にお住まいの 13 歳から 30 歳までの青少年・若者及び 13 歳から 18 歳までの青少年の保護者

抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

調査期間：平成 30 年 9 月 7 日～9 月 21 日

調査方法：郵送による配布・回収

(3) 実施状況

		調査対象者（配布数）	有効回収数	有効回収率
青少年・若者に関する意識行動と 思春期保健に関する調査		6,500 件	1,393 件	21.4%
	うち 13 歳から 18 歳までの青少年の保護者	2,500 件	638 件	25.5%
(参考)	平成 25 年調査	5,000 件	1,150 件	23.0%
	平成 21 年調査	1,800 件	427 件	23.7%
	平成 20 年調査	5,000 件	1,061 件	21.2%

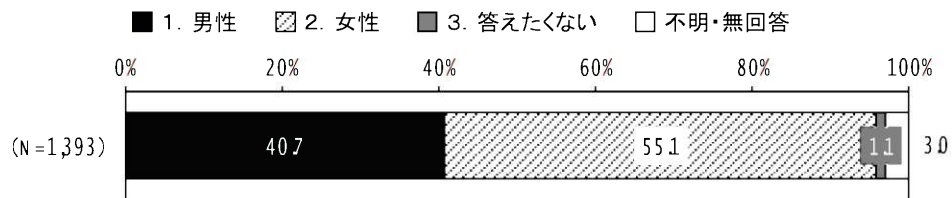
(4) 報告書の見方

- ・ 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ・ 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- ・ 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ・ 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- ・ 設問によっては、結果を詳細に分析するため、クロス集計表を掲載しています。

2 主な調査結果（青少年本人を対象とした調査の結果）

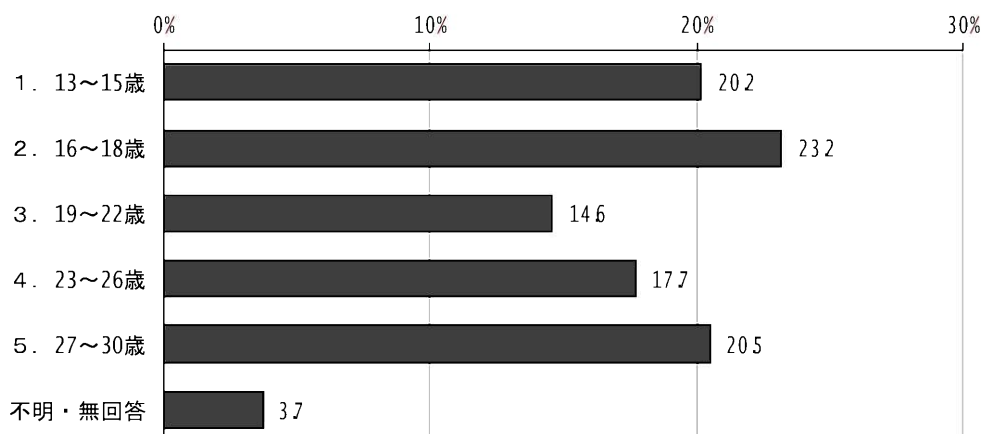
(1) 回答者について

ア 性別（問１）



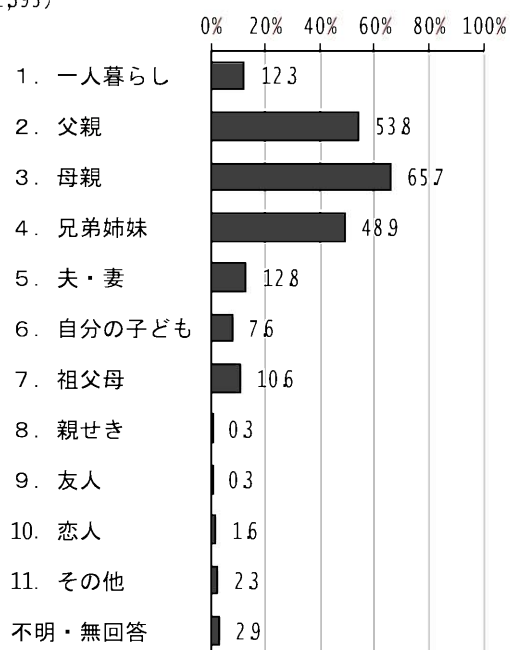
イ 年齢（問２）

(N=1,393)



ウ 一緒に暮らしている人（問４）

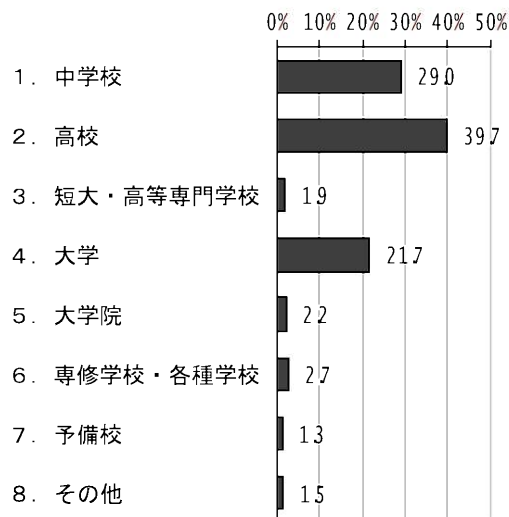
(N=1,393)



エ 通っている学校（問5(1)）

※ 学生の方のみの回答

(N=780)

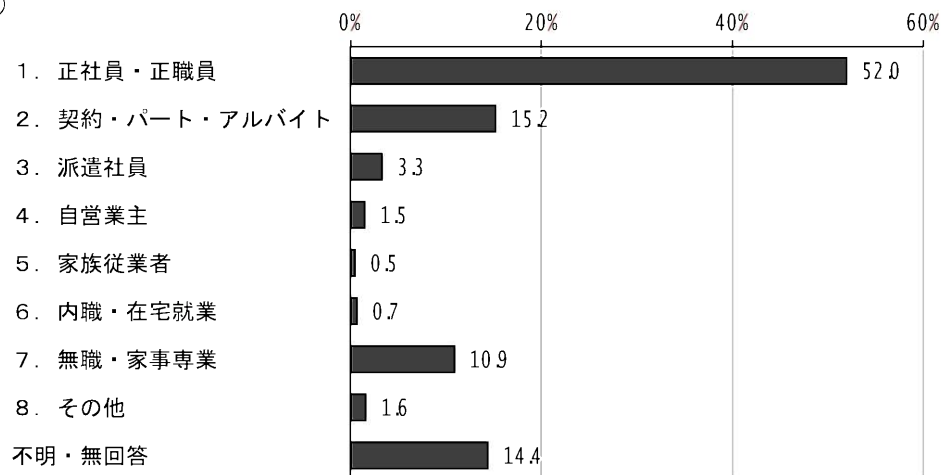


※不明・無回答除く

オ 職業について（問6）

※ 学生以外の方のみ回答

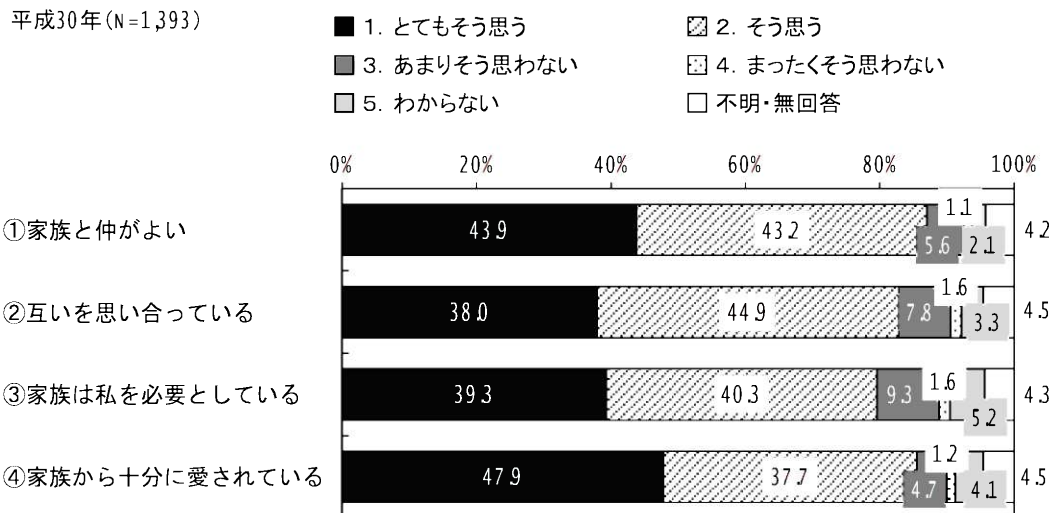
(N=613)



(2) 身近な人について

ア 家族との関係について（問7(1)）

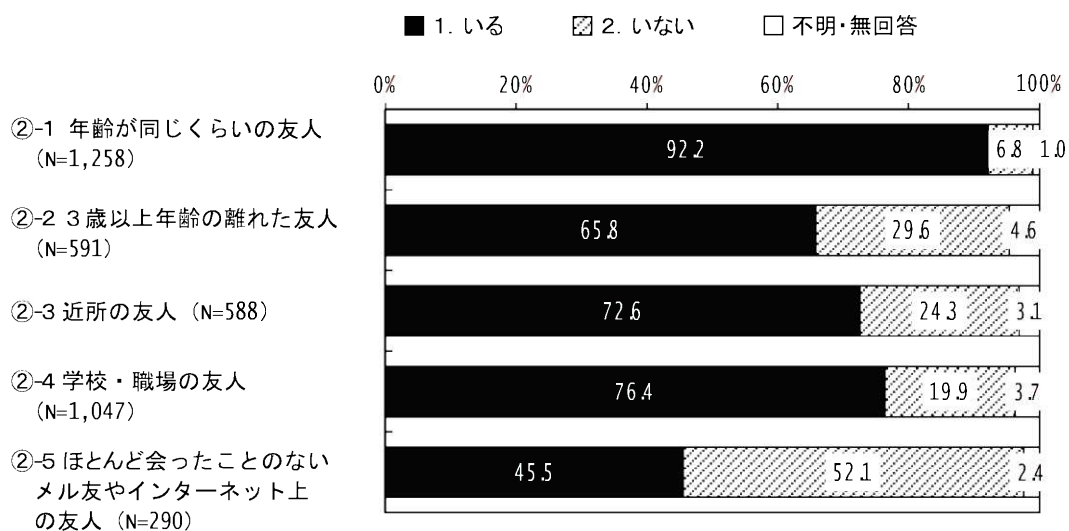
「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は、「家族と仲がよい」が約9割と最も高く、次いで「家族から十分に愛されている」、「互いを思い合っている」の順で多く挙げられています。



イ 友人との関係について（問8②）

ふだん付き合っている友人のうち、本音で付き合える友人の有無については、「年齢が同じくらいの友人」の中に「いる」と約9割が回答しており、次いで「学校・職場の友人」、「近所の友人」、「3歳以上年齢の離れた友人」の順で多く挙げられています。

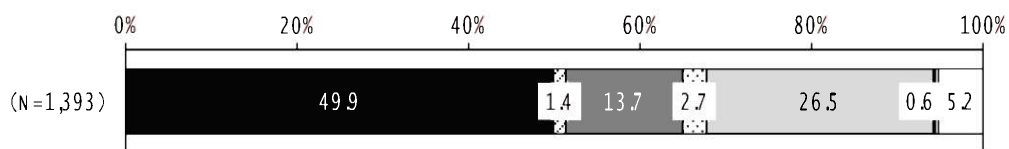
【ふだん付き合っている友人のうち、本音で付き合える友人の有無】



ウ LGBT等の性的少数者に対する受入れについて（問9）

「自分自身のことでも、身近な人のことであっても受け入れることができる」が最も多く約5割となっています。次いで「わからない」が多く、約3割弱となっています。

- 1. 自身のことでも、身近な人のことであっても受け入れることができる
- ▨ 2. 自身のことは受け入れることができるが、身近な人のことは受け入れることができない
- 3. 自身のことは受け入れることができないが、身近な人のことは受け入れることができる
- ▨ 4. 自身のことでも、身近な人のことであっても受け入れることができない
- 5. わからない
- ▨ 6. 答えたくない
- 不明・無回答

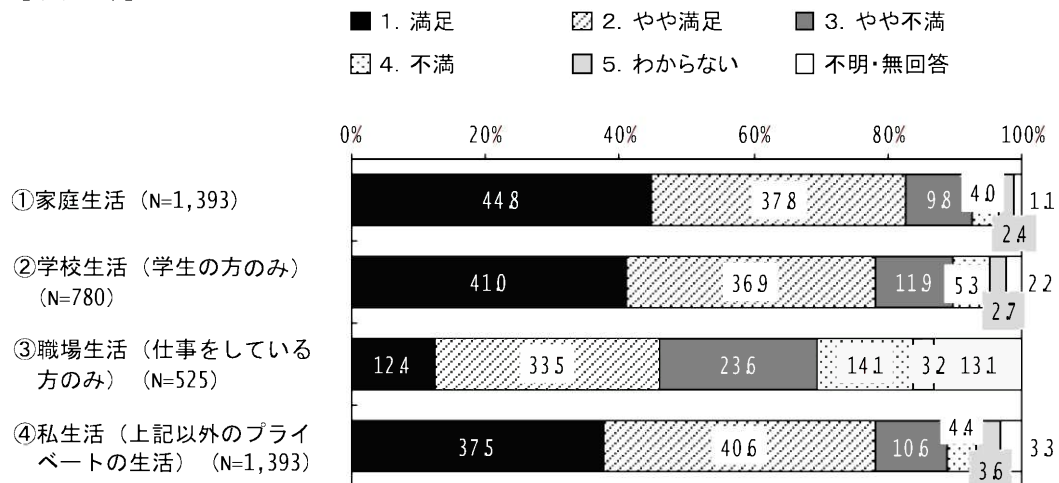


(3) ふだんの生活について

ア 今の生活の満足度（問 10）

満足（「満足」と「やや満足」の合計）と回答した方は、「家庭生活」で8割を超え、「学校生活」，「私生活」では，約8割となっているが，「職場生活」では，4割台半ばとなっています。

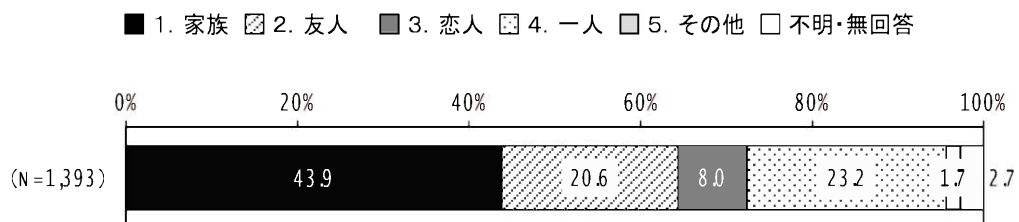
【平成30年】



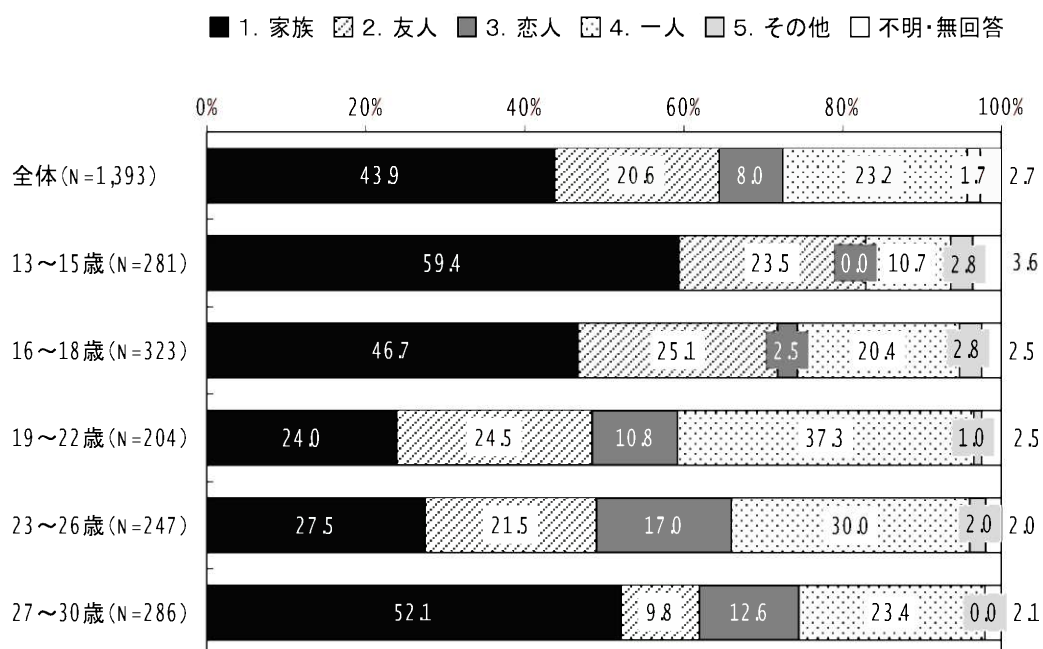
イ 休日を過ごす相手（問 12(1)）

「家族」が最も多く、次いで「一人」，「友人」の順で多く挙げられています。

13～15歳，16～18歳，27～30歳では「家族」が最も多く，19～22歳，23～26歳では「一人」が最も多くなっています。



年齢別

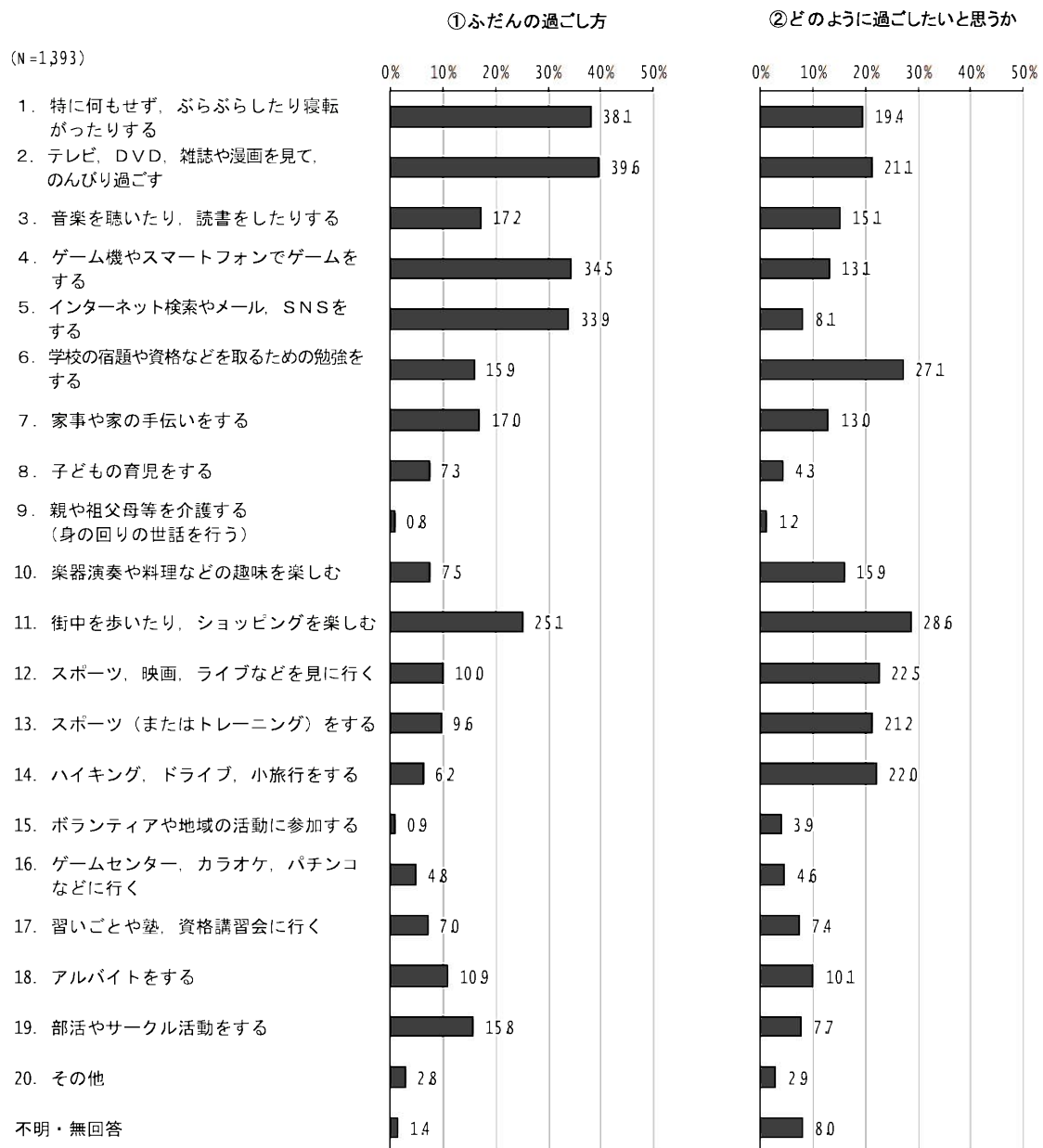


ウ ふだんの休日の過ごし方（問 12(2)①）

「テレビ、DVD、雑誌や漫画を見て、のんびり過ごす」が約4割と最も高く、次いで「特に何もせず、ぶらぶらしたり寝転がったりする」，「ゲーム機やスマートフォンでゲームをする」，「インターネット検索やメール，SNSをする」の順で多く挙げられています。

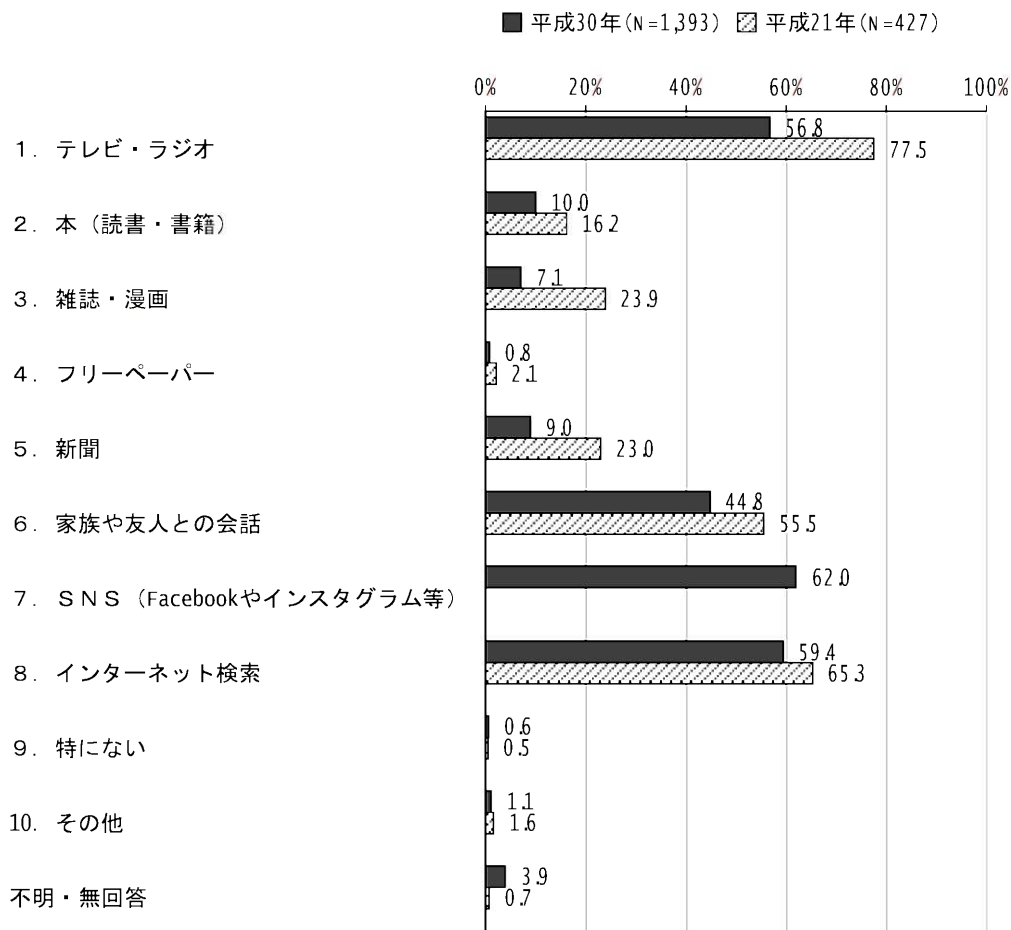
エ 今後希望する休日の過ごし方（問 12(2)②）

「街中を歩いたり，ショッピングを楽しむ」が約3割と最も多く、次いで「学校の宿題や資格などを取るための勉強をする」，「スポーツ，映画，ライブなどを見に行く」，「ハイキング，ドライブ，小旅行をする」の順で多く挙げられています。



オ 新しい情報の入手方法（問 13）

「SNS（FacebookやInstagram等）」が6割を超えて最も高く、次いで「インターネット検索」、「テレビ・ラジオ」の順で多く挙げられています。



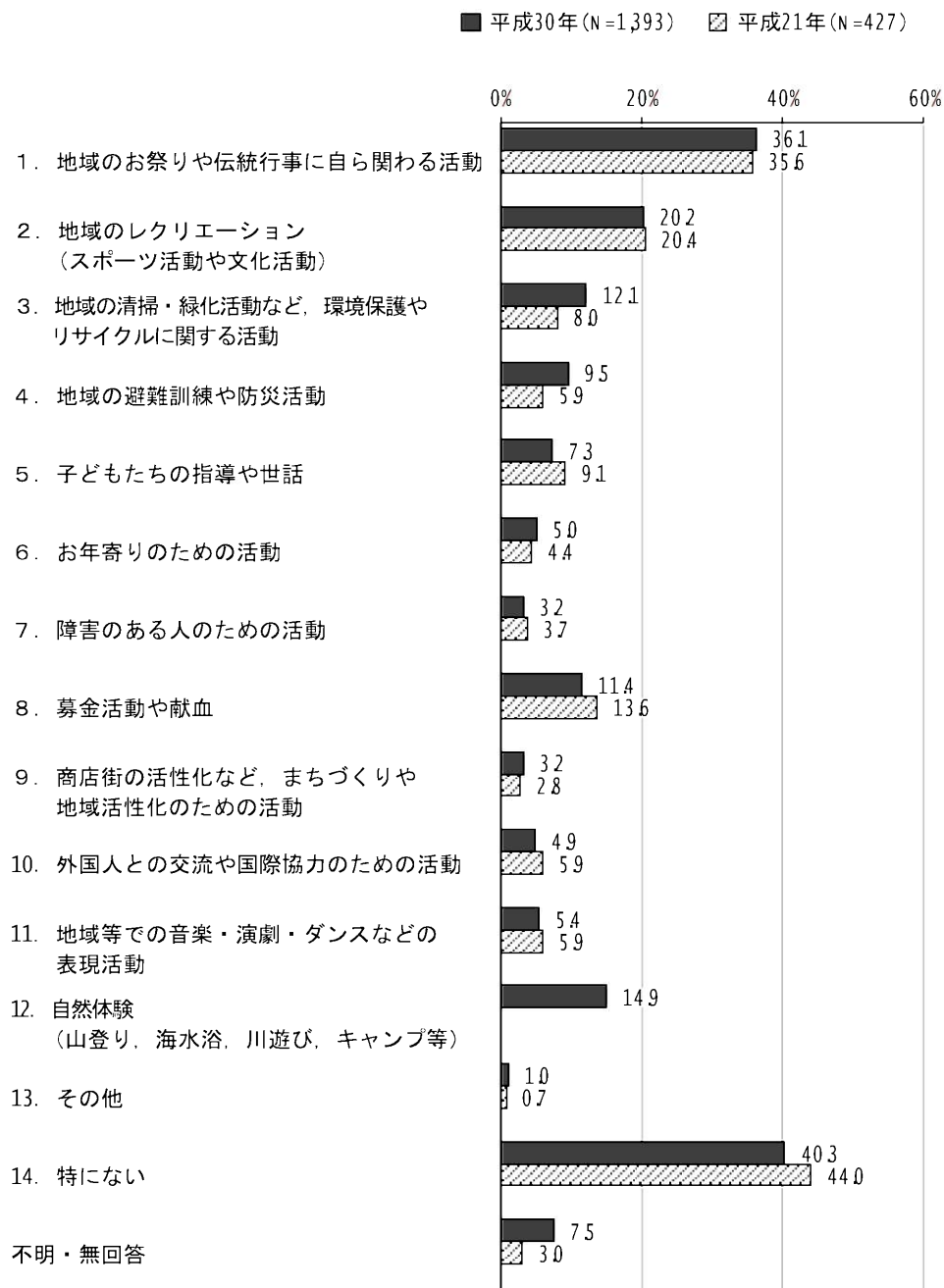
※「7. SNS（Facebook やInstagram等）」は平成 30 年のみの選択肢

※平成 21 年では、「8. インターネット検索」は「インターネット（パソコン・携帯電話など）」

(4) 地域活動への参加について

ア 活動への参加体験（問 14(1)）

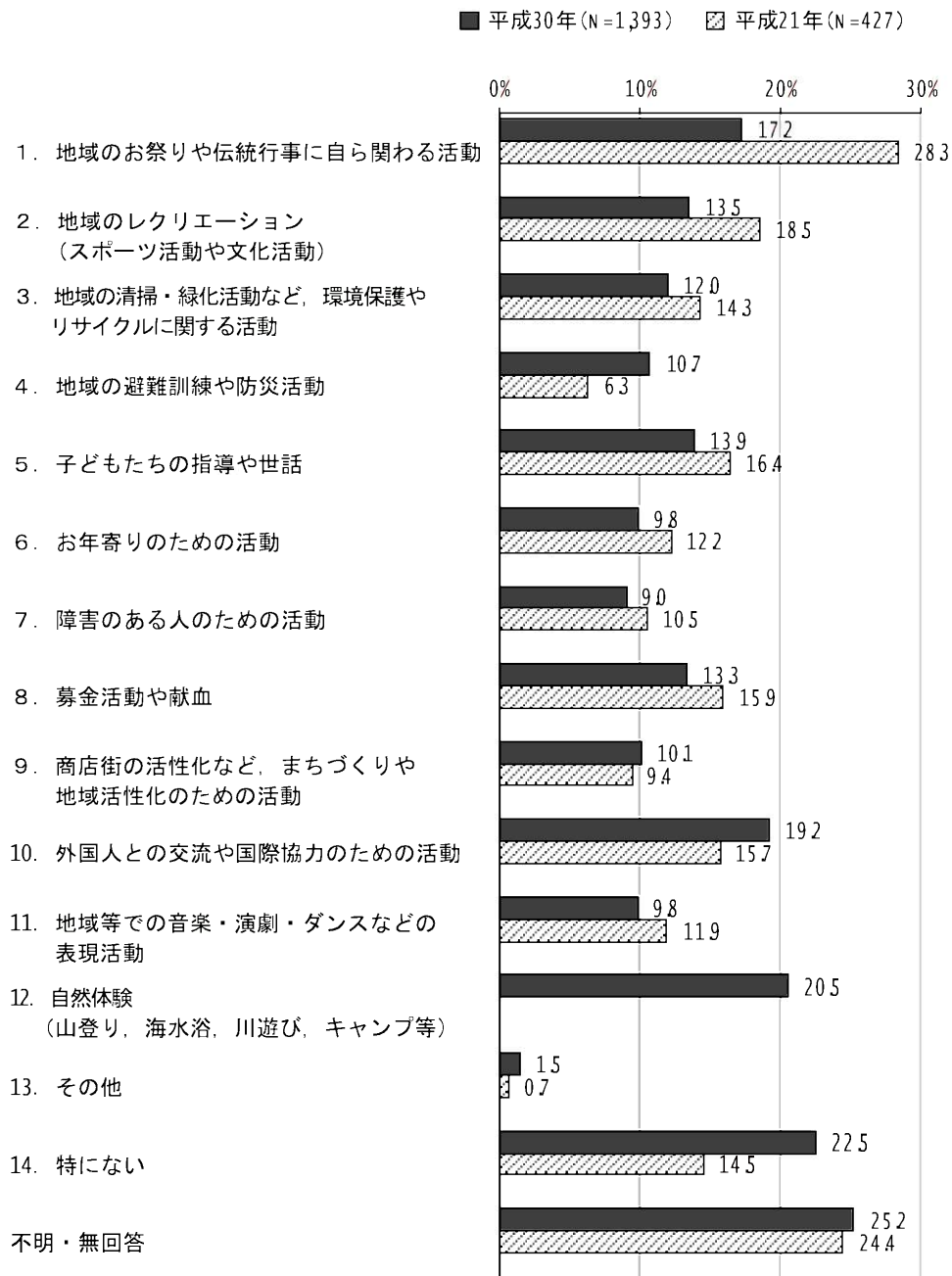
この3年間で、「特にない」が4割と最も高く、次いで「地域のお祭りや伝統行事に自ら関わる活動」，「地域のレクリエーション」の順で多く挙げられています。



※「12. 自然体験（山登り、海水浴、川遊び、キャンプ等）」は平成30年のみの選択肢

イ 今後参加してみたい活動（問 14(2)）

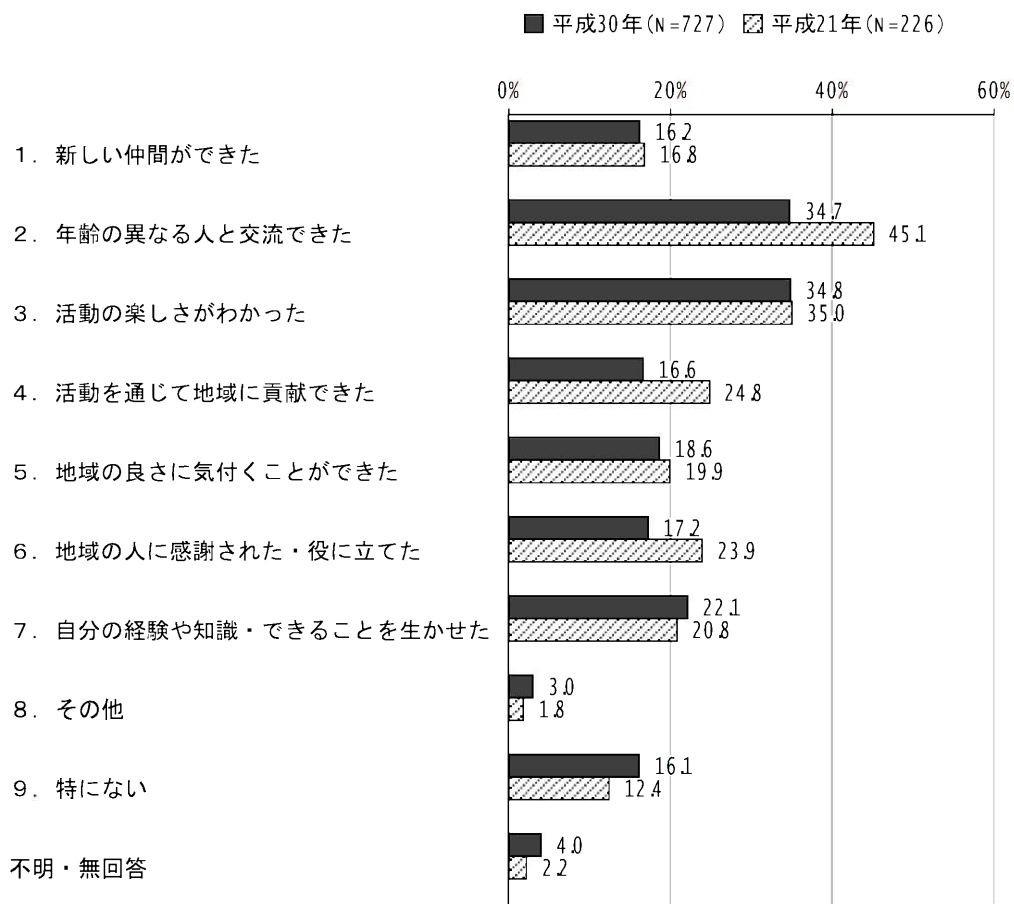
「不明・無回答」，「特にない」以外では，「自然体験」，「外国人との交流や国際協力のための活動」の順で多く挙げられています。



※「12. 自然体験（山登り、海水浴、川遊び、キャンプ等）」は平成 30 年のみの選択肢

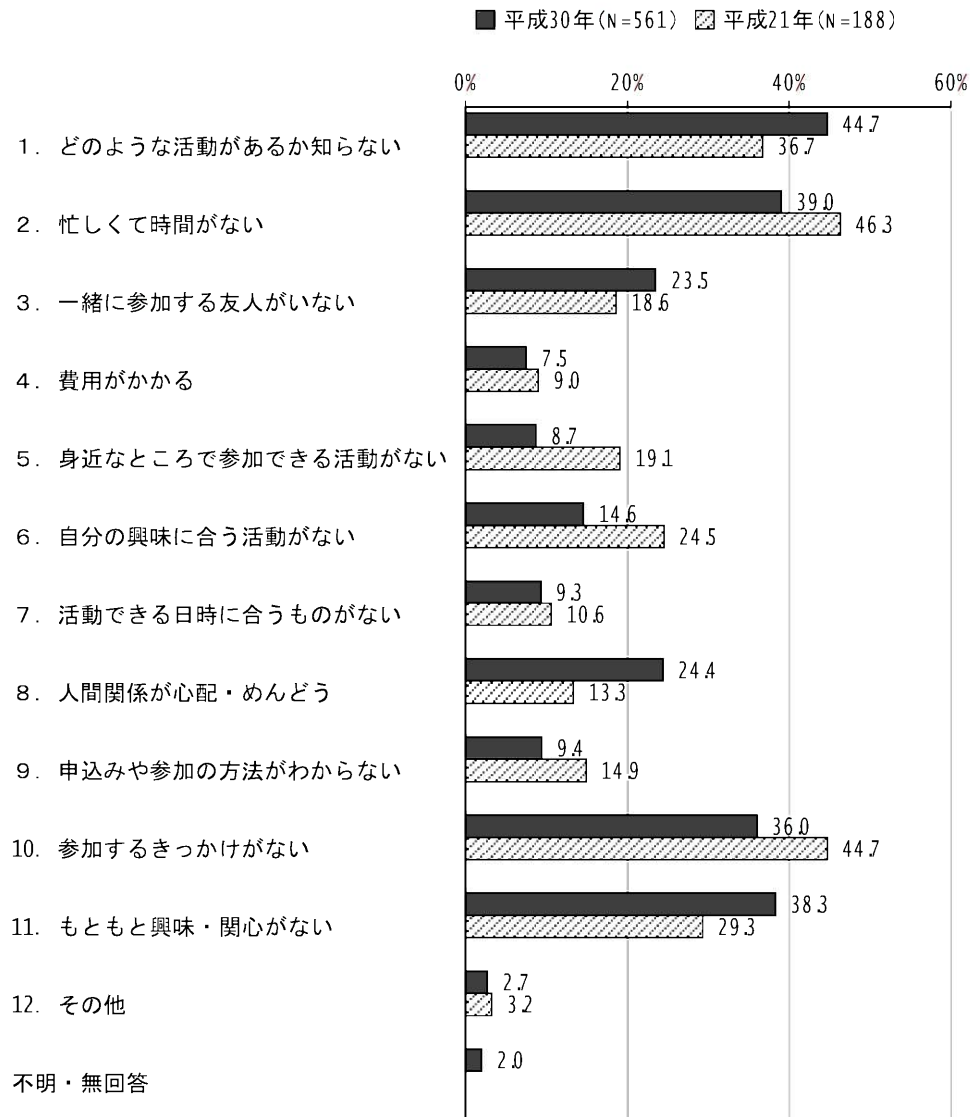
ウ 活動に参加して良かったこと（問 14(3)）

「活動の楽しさがわかった」が3割台半ばと最も高く、次いで「年齢の異なる人と交流できた」，「自分の経験や知識・できることを生かせた」の順で多く挙げられています。



エ 活動に参加しなかった理由（問 14(5)）

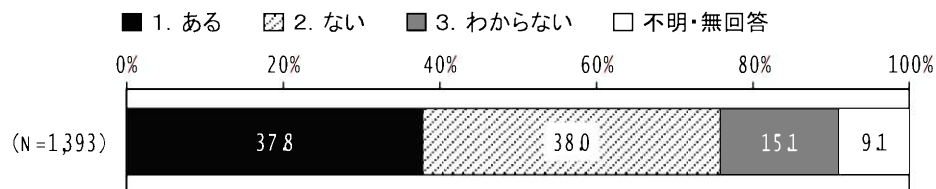
「どのような活動があるか知らない」が4割台半ばと最も高く、次いで「忙しくて時間がない」，「もともと興味・関心がない」の順で多く挙げられています。



(5) 健康について

ア 自分の生活リズムに問題があると思うか（問 16）

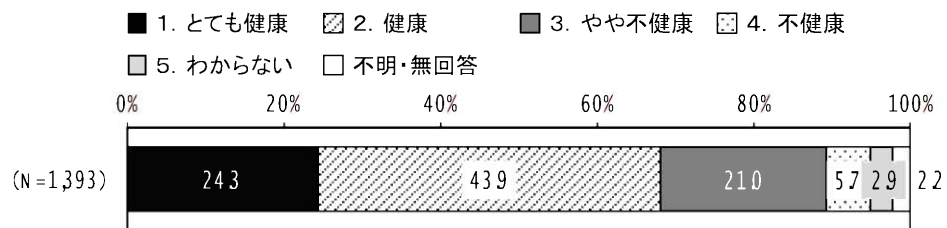
「ある」と「ない」の割合がともに約４割と、ほぼ同程度となっています。



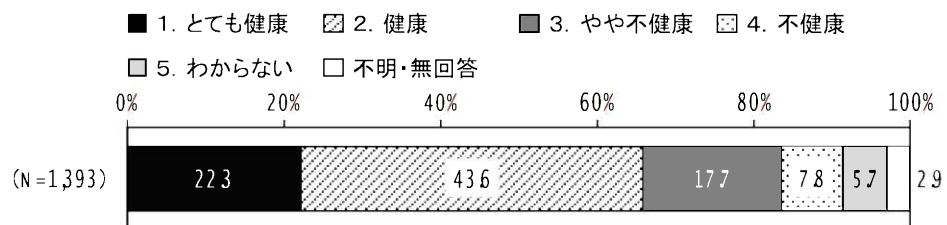
イ 自分の健康についてどのように思うか（問 17）

自分の健康について、こころとからだともに、健康（「とても健康」と「健康」の合計）が約７割、不健康（「やや不健康」と「不健康」の合計）が約３割程度となっています。

①からだ



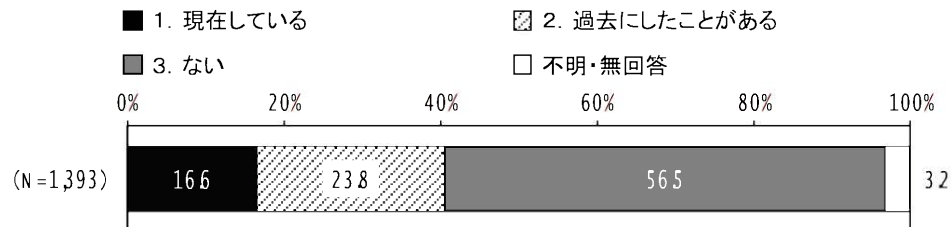
②こころ



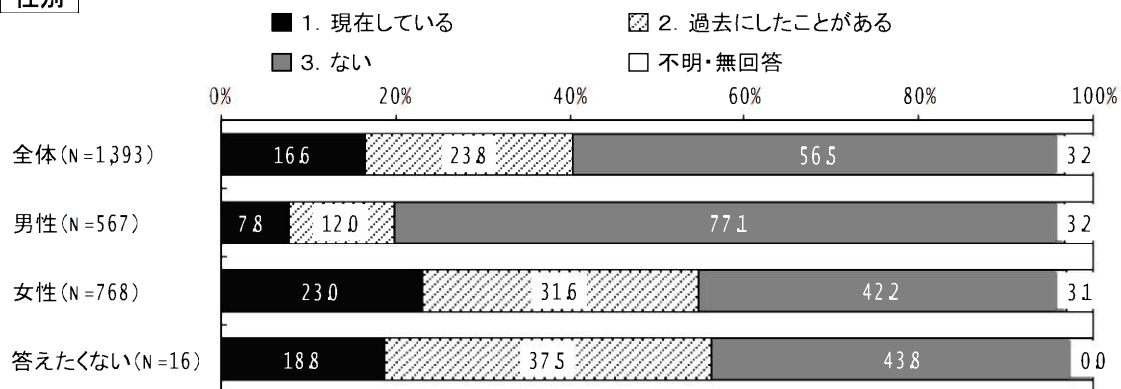
ウ ダイエットをしたことがあるか（問 21(1)）

したことがある（「過去にしたことがある」と「現在している」の合計）が約4割となっています。

男女別に比較すると、女性では、男性よりも「したことがある」の合計の割合が高くなっています。

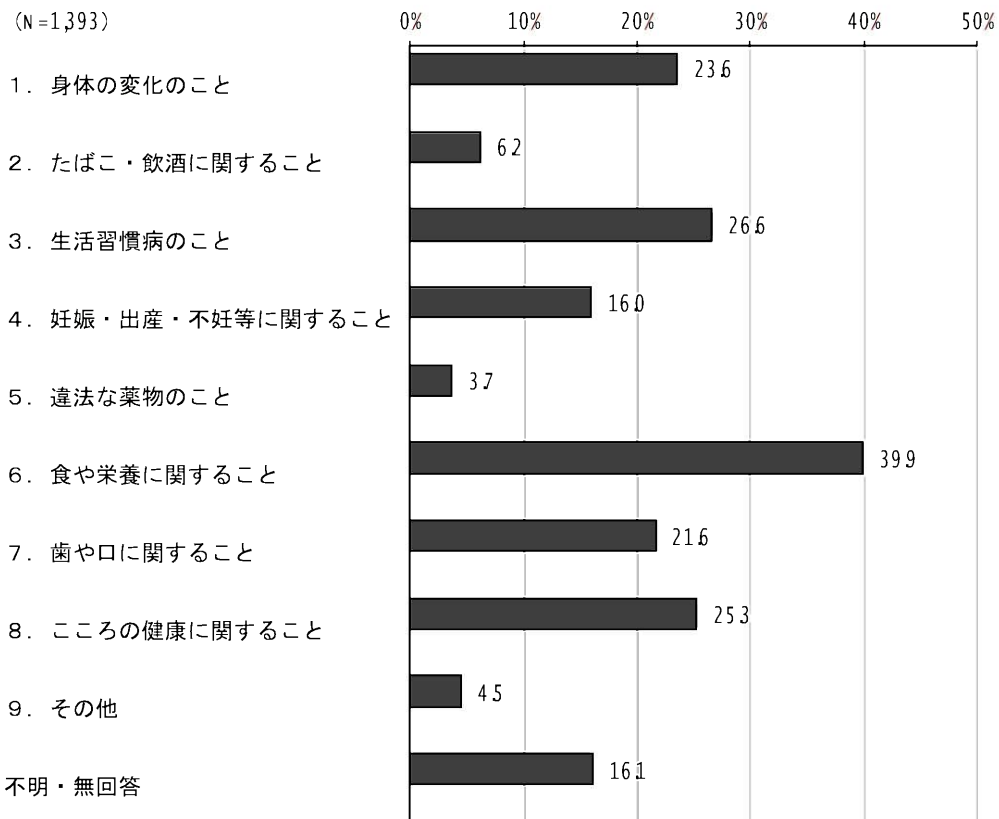


性別



エ 健康について知りたいこと（問 21(3)）

「食や栄養に関すること」が約４割と最も高く、次いで「生活習慣病のこと」、
「こころの健康に関すること」の順で多く挙げられています。



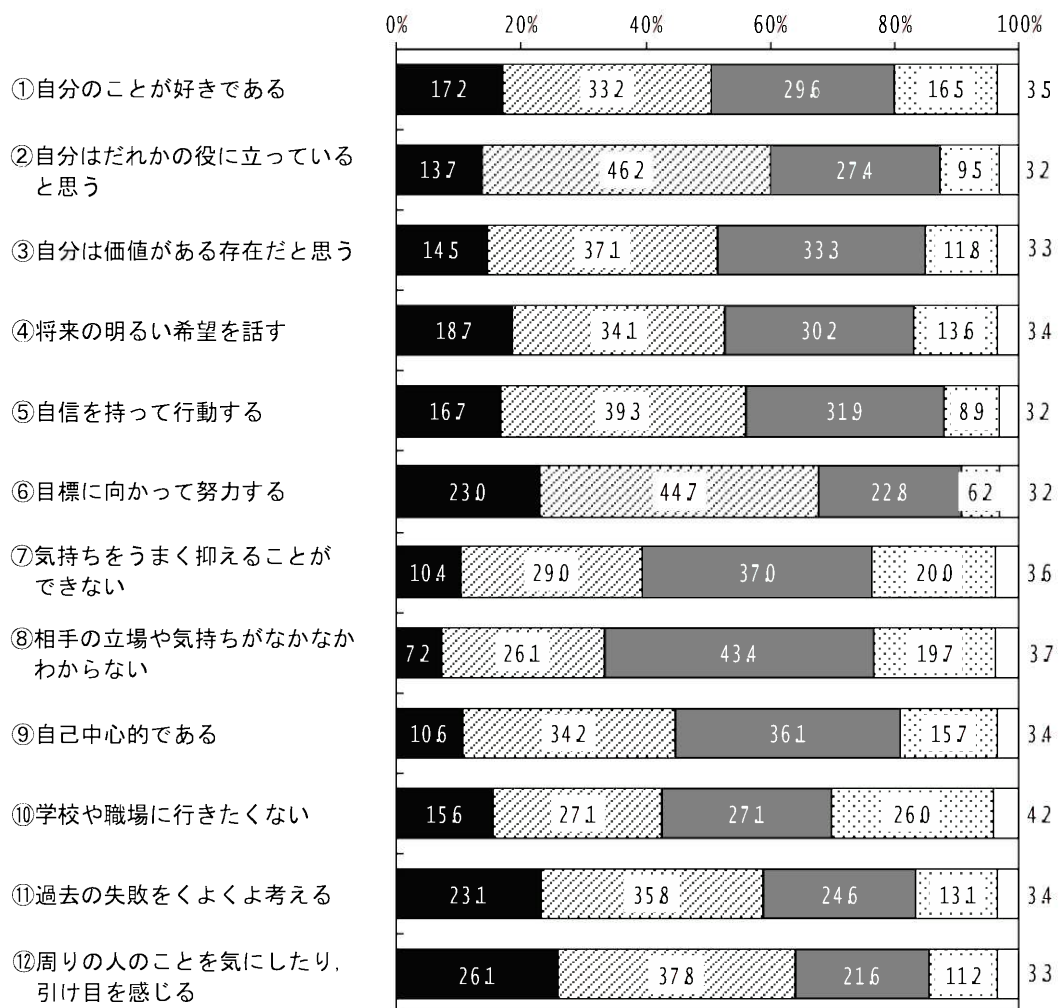
(6) 気持ちや悩みについて

ア ふだん感じる気持ち（問 22）

ある（「よくある」と「時々ある」の合計）と回答した方は、「目標に向かって努力する」が約7割と最も高く、次いで「周りの人のことを気にしたり、引け目を感じる」，「自分はだれかの役に立っていると思う」の順で多く挙げられています。

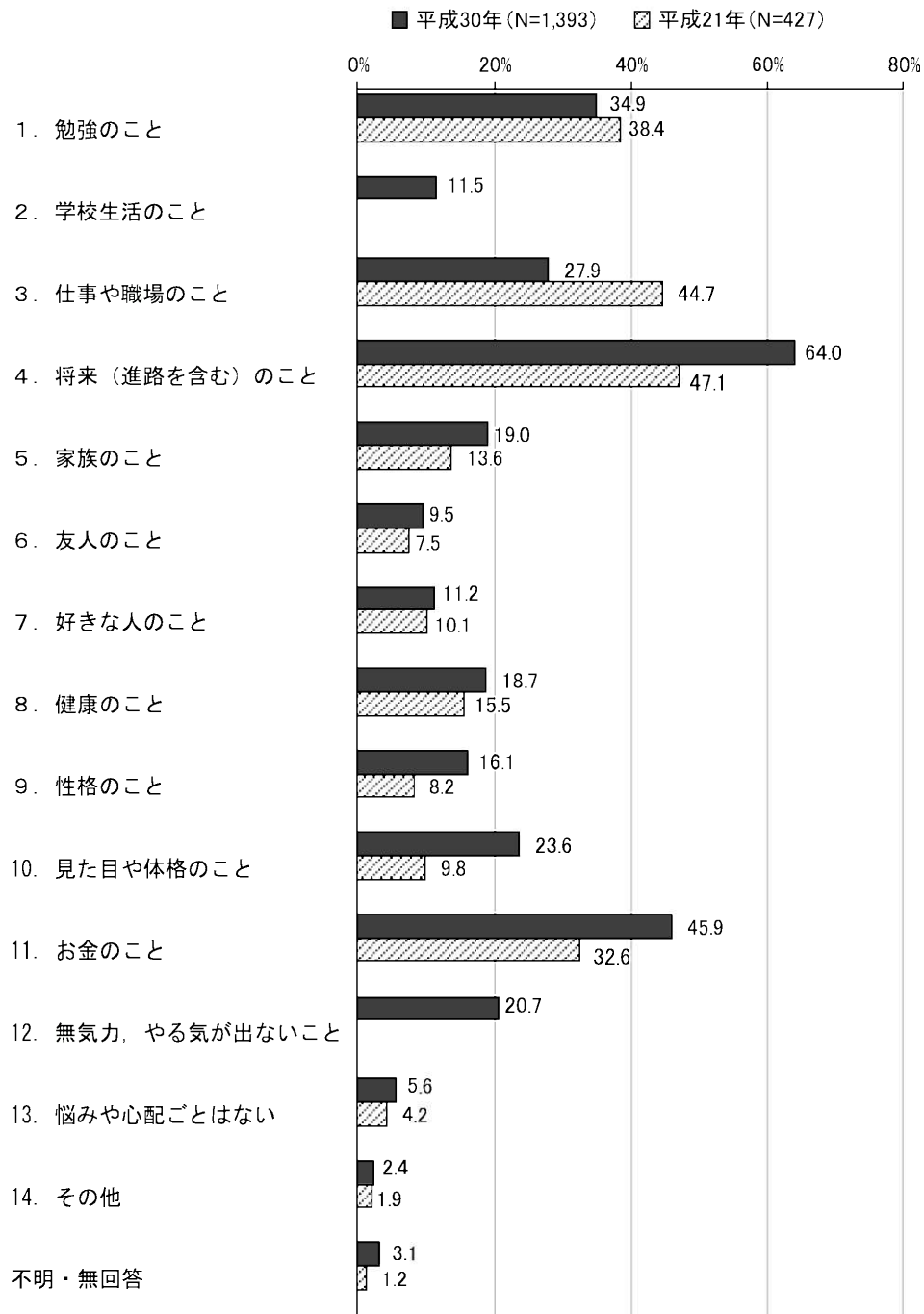
平成30年(N=1,393)

■ 1. よくある ▨ 2. 時々ある ■ 3. あまりない
▩ 4. ほとんどない □ 不明・無回答



イ 悩みや心配ごと（問 23）

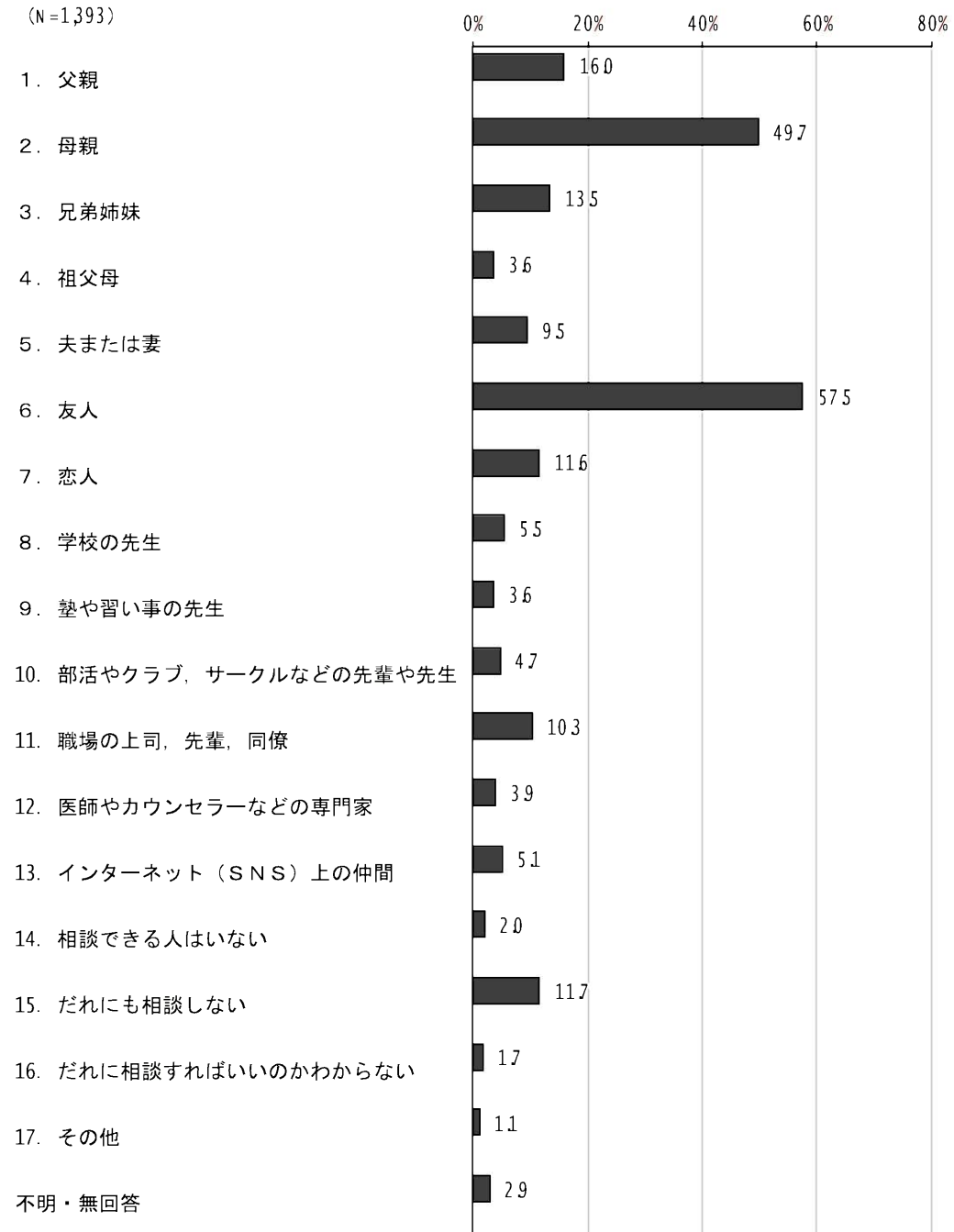
「将来（進路を含む）のこと」が6割台半ばと最も高く、次いで「お金のこと」，「勉強のこと」が多く挙げられています。



※「2. 学校生活のこと」「12. 無気力、やる気が出ないこと」は平成30年のみの選択肢

ウ 悩みや心配ごとの相談相手（問 24）

「友人」が最も高く、次いで「母親」が多く挙げられています。

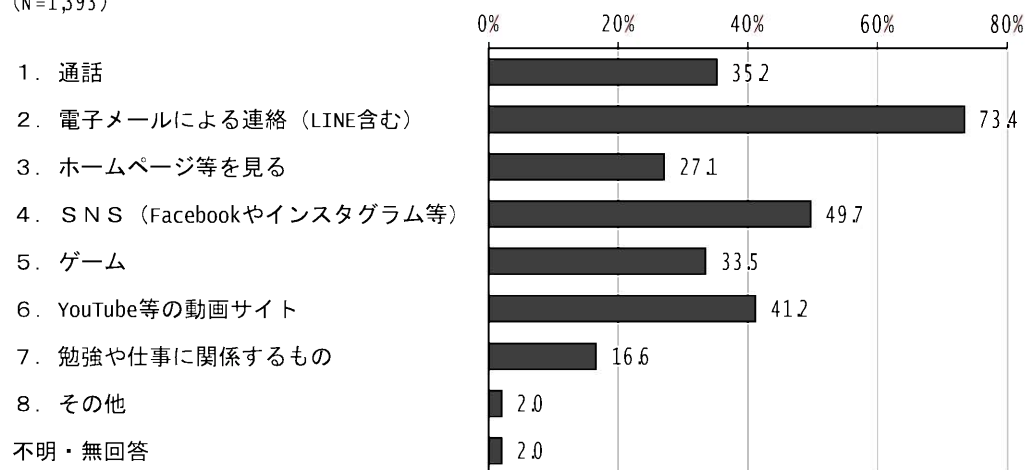


(7) スマートフォンや携帯電話の利用について

ア 主な利用目的（問 26）

「電子メールによる連絡（LINE含む）」が7割を超えて最も高く、次いで、「SNS（FacebookやInstagram等）」と「YouTube等の動画サイト」が多く挙げられています。

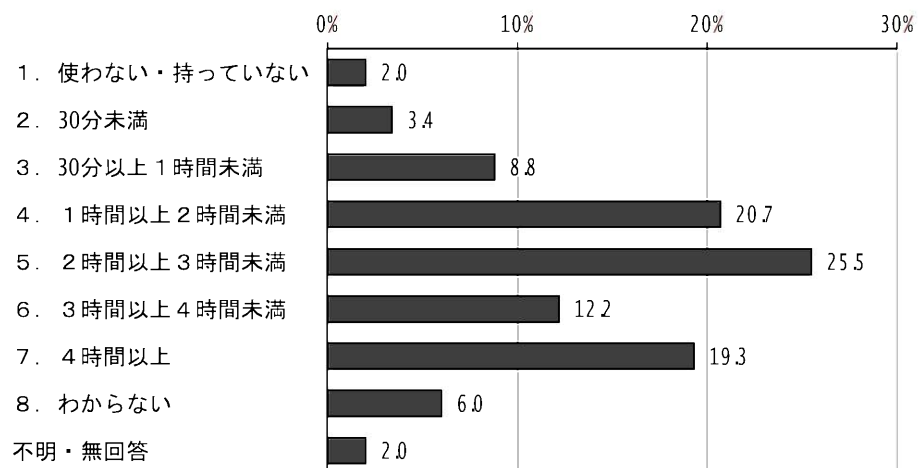
(N=1,393)



イ 平日1日の利用時間（問 27）

「2時間以上3時間未満」が最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」，「4時間以上」が多く挙げられています。

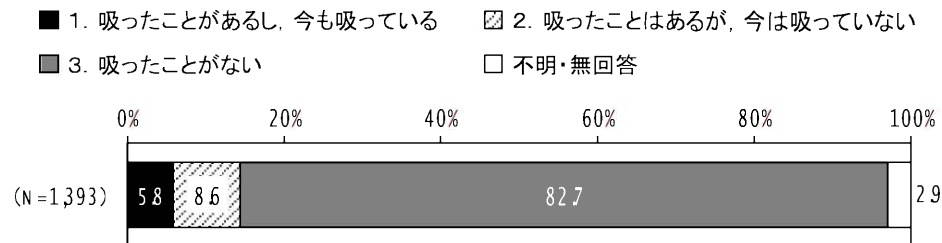
(N=1,393)



(8) たばこについて

喫煙経験について（問 29）

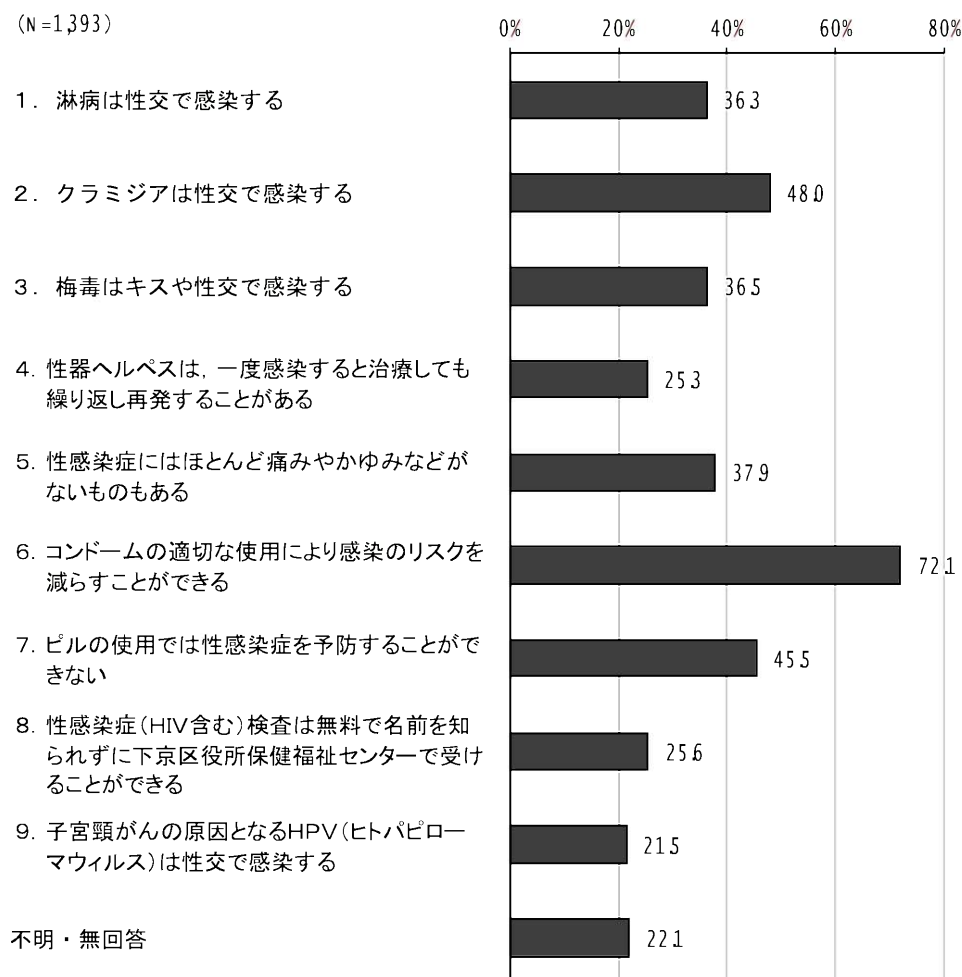
「吸ったことがない」が約8割で最も多くなっています。



(9) 性に関することについて

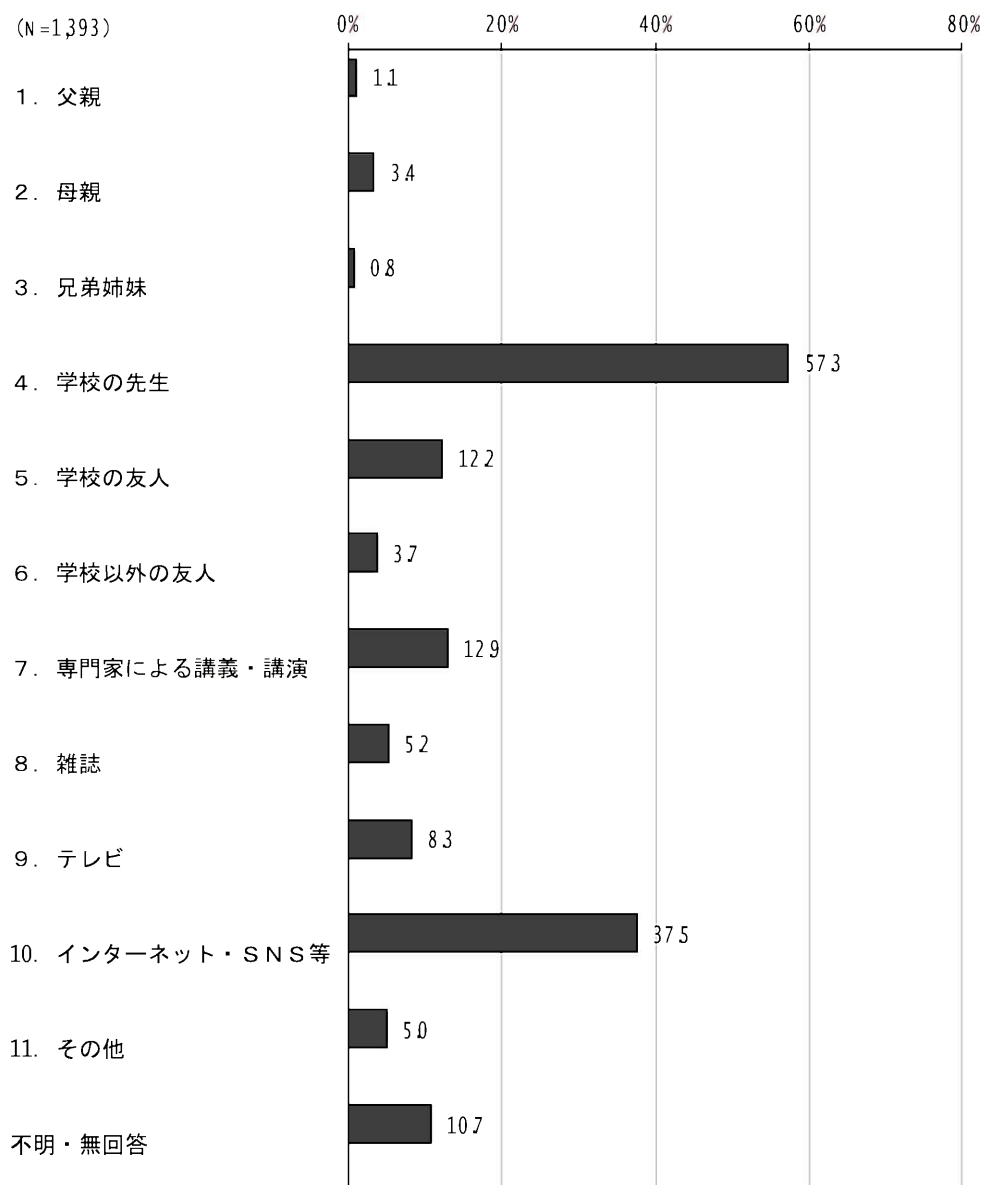
ア 性感染症に関する知識について（問 32）

「コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができる」と回答した割合は、全体の7割で最も高く、次いで「クラミジアは性交で感染する」, 「ピルの使用では性感染症を予防することができない」が多く挙げられています。



イ 性に関する知識の取得経路について（問 34）

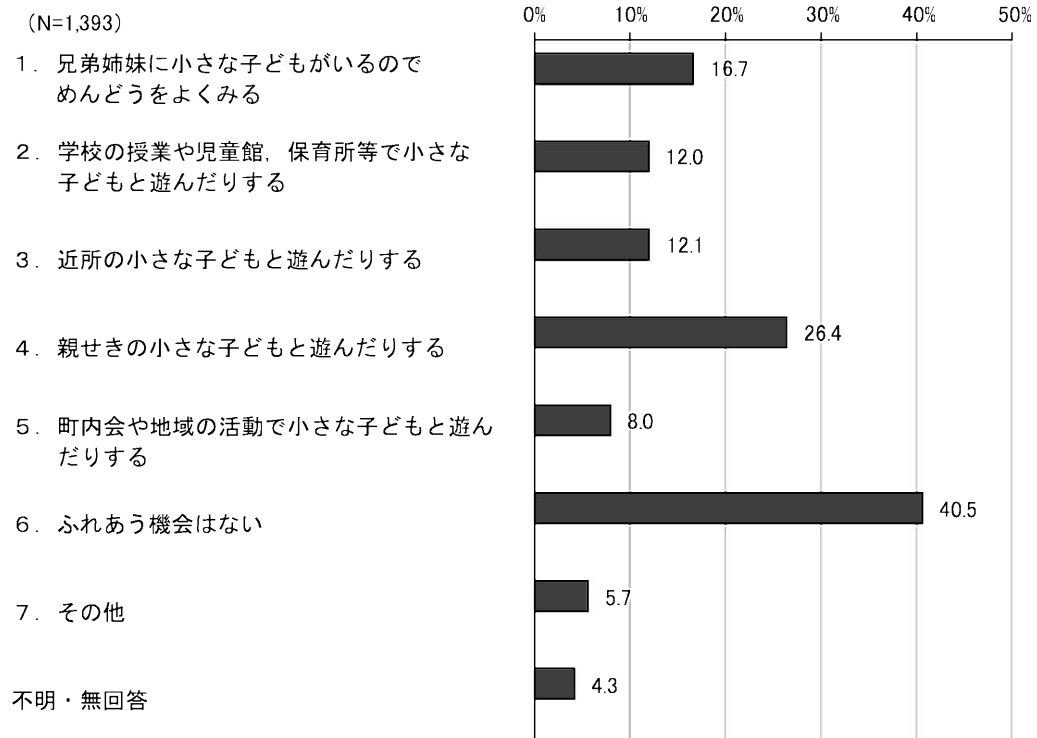
「学校の先生」が約6割で最も高く、次いで「インターネット・SNS等」が多く挙がっています。



(10) ライフデザインについて

ア 小さな子どもとふれあう機会（問 36）

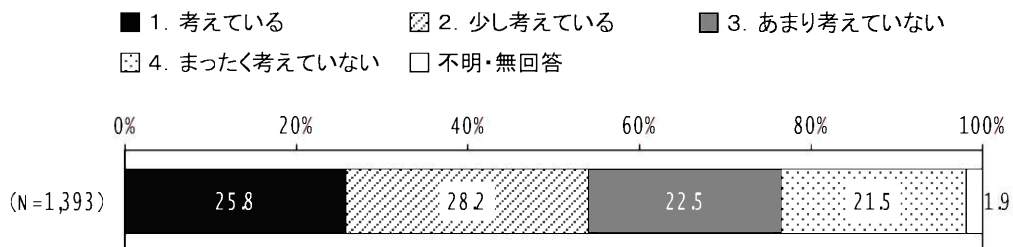
「ふれあう機会はない」が4割と最も高く、次いで「親戚の子どもと遊んだりする」，「兄弟姉妹に小さな子どもがいるのでめんどろをよくみる」が多く挙げられています。



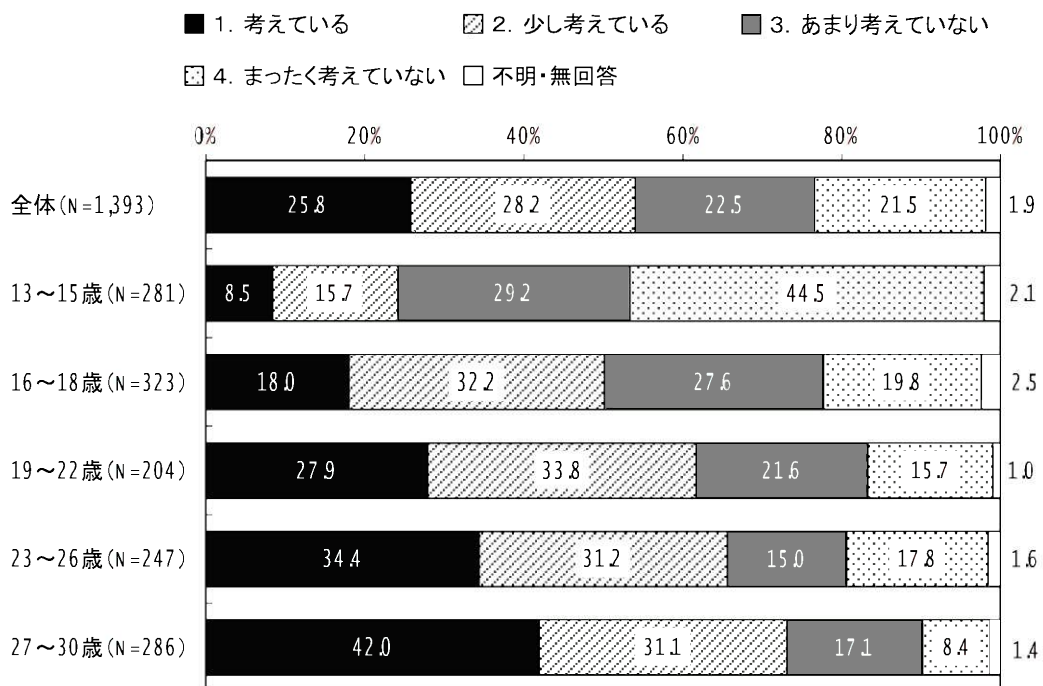
イ 結婚や出産について将来のライフデザインを考えているか（問 38）

「考えている（「考えている」と「少し考えている」の合計）」が5割，「考えていない（「あまり考えていない」と「まったく考えていない」の合計）」が4割台半ばとなっています。

「考えていない」の割合は，年齢が上がるほど減少する傾向にあります。

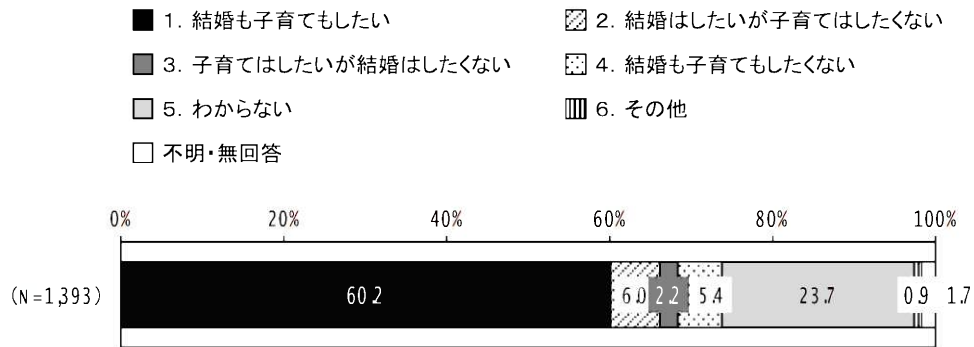


年齢別



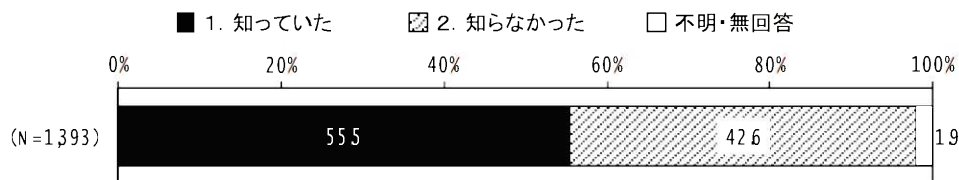
ウ 将来の結婚や子育てに関する意識（問 39）

「結婚も子育てもしたい」が全体の6割となっています。



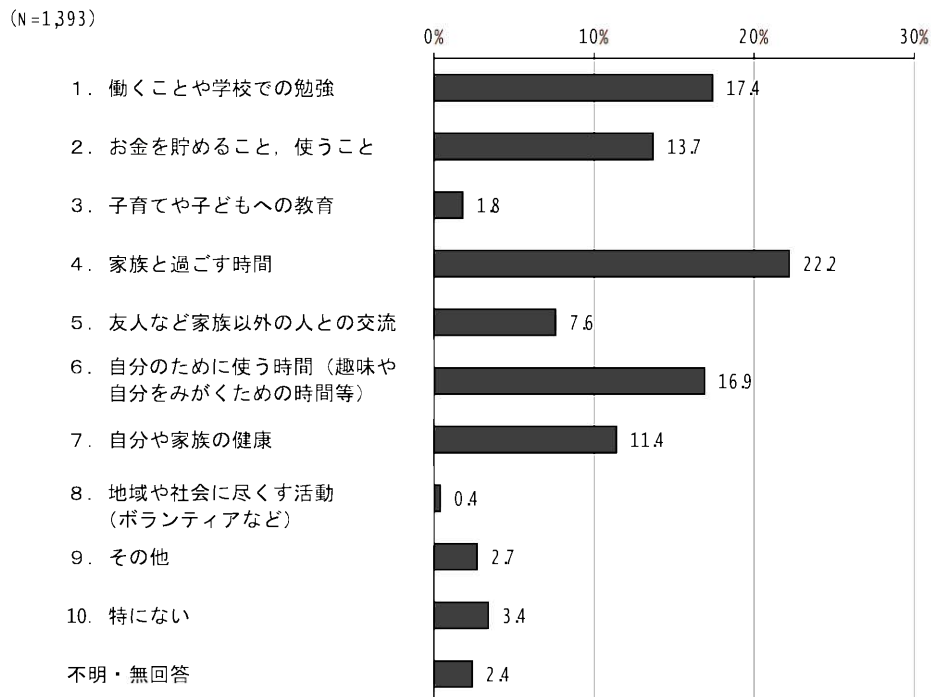
エ 妊娠に適した時期があることを知っているか（問 40）

「知っていた」が全体の5割台半ばとなっています。



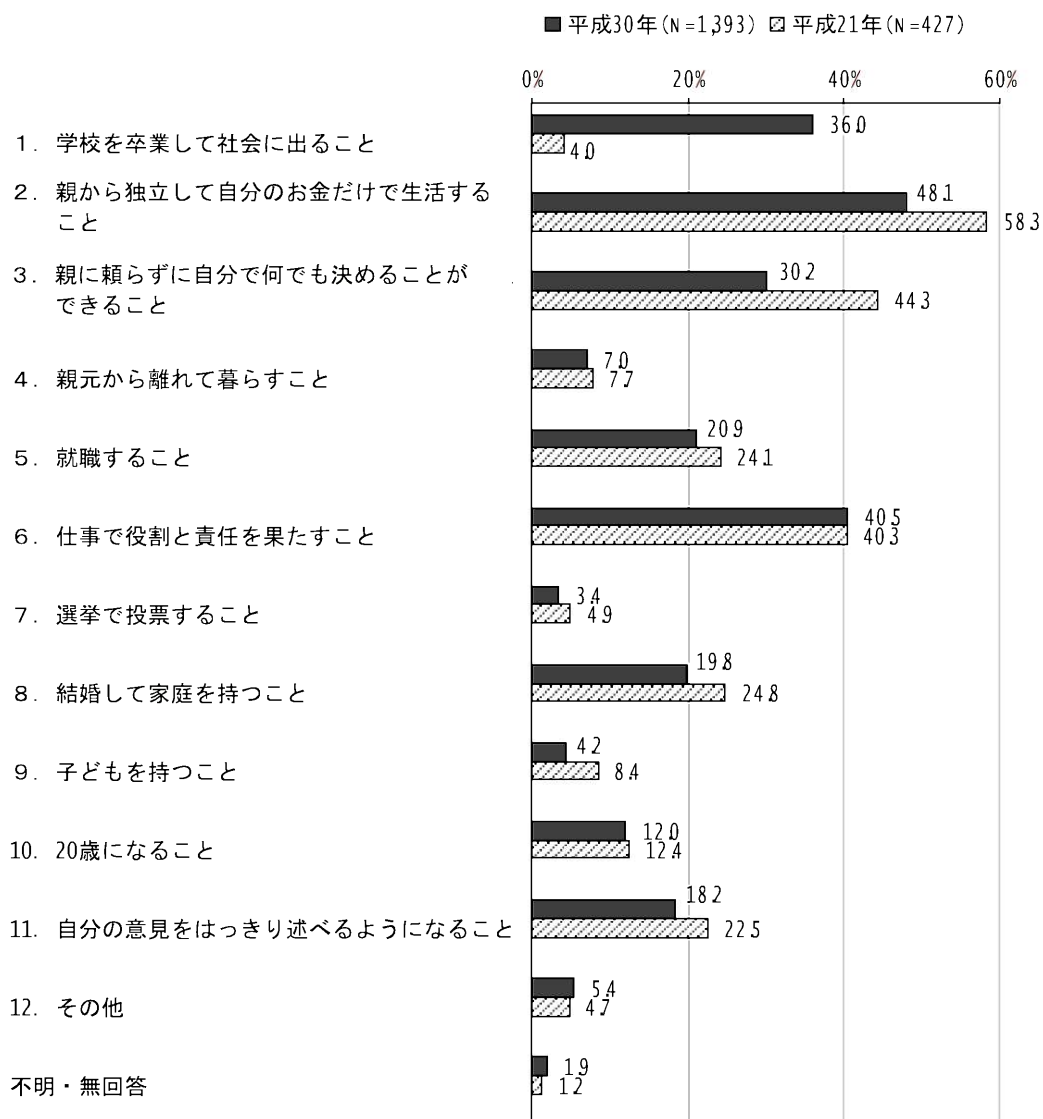
オ 生活で最も重要なこと（問 41）

「家族と過ごす時間」が最も高く、次いで「働くことや学校での勉強」, 「自分のために使う時間」が多く挙げられています。



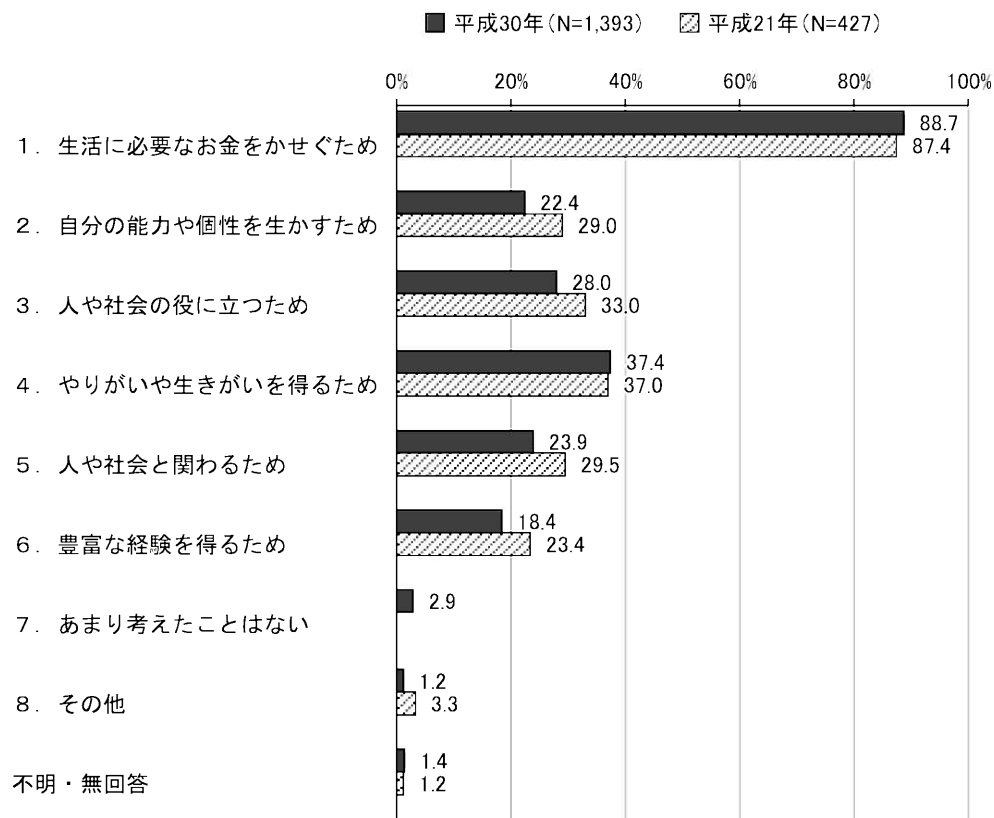
カ 「大人になること」への考え方（問 42）

「親から独立して自分のお金だけで生活すること」が最も高く、次いで「仕事で役割と責任を果たすこと」，「学校を卒業して社会に出ること」が多く挙げられています。



キ 働く目的（問 43）

「生活に必要なお金をかせぐため」の割合が約 9 割と最も高く，次いで「やりがいや生きがいを得るため」，「人や社会の役に立つため」が多く挙げられています。

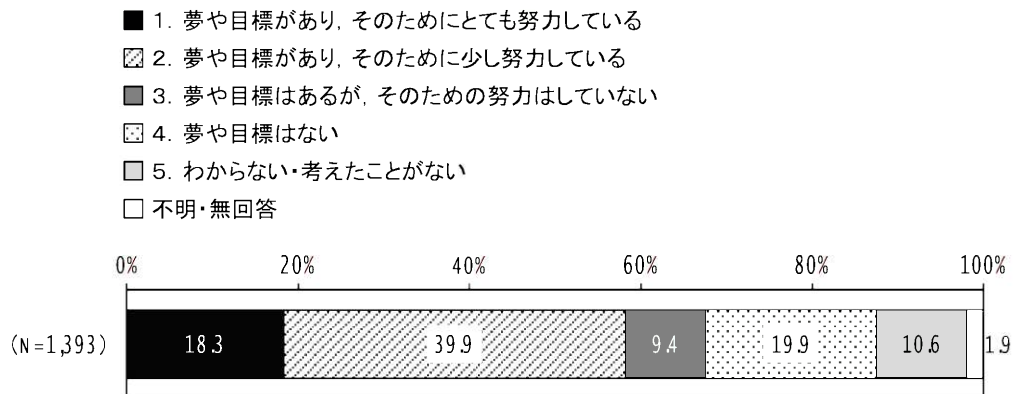


※「7. あまり考えたことはない」は平成 30 年のみの選択肢

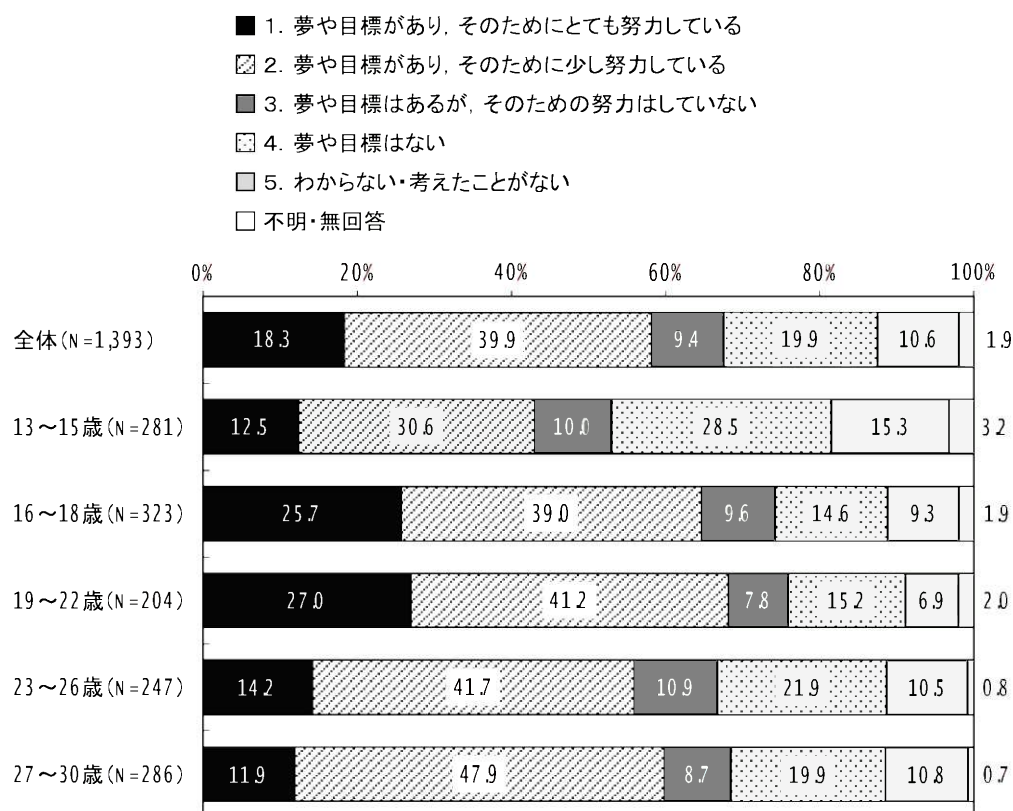
ク 将来の夢や目標（問 44）

夢や目標があり，そのために努力している（「とても努力している」と「少し努力している」の合計）との回答は約6割となっています。

「夢や目標があり，そのためにとても努力している」を年齢別にみると，19～22歳で最も高くなっています。



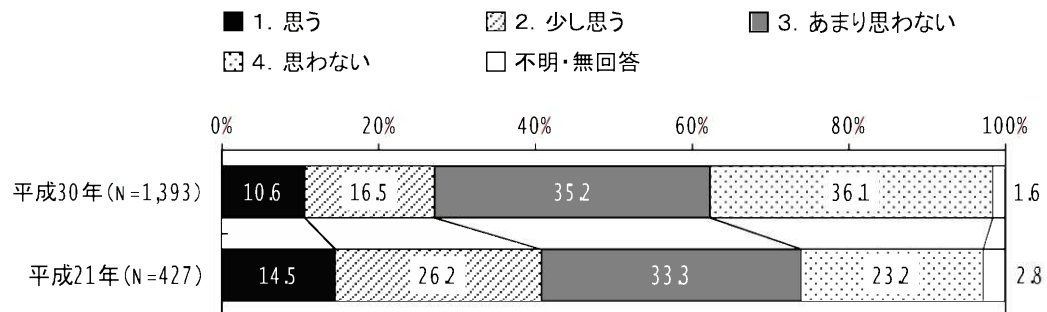
年齢別



(11) 市政やまちづくりへの興味・参加について

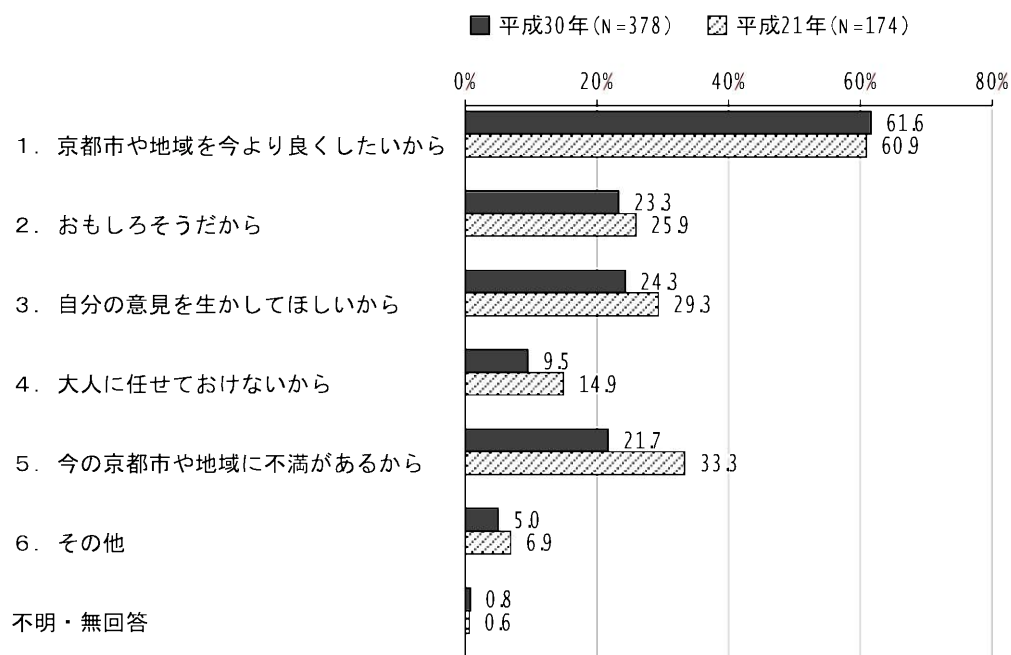
ア 市政やまちづくりに関する意見表明の機会への参加意向（問 46(1)）

消極的な回答が積極的な回答を大きく上回っています。



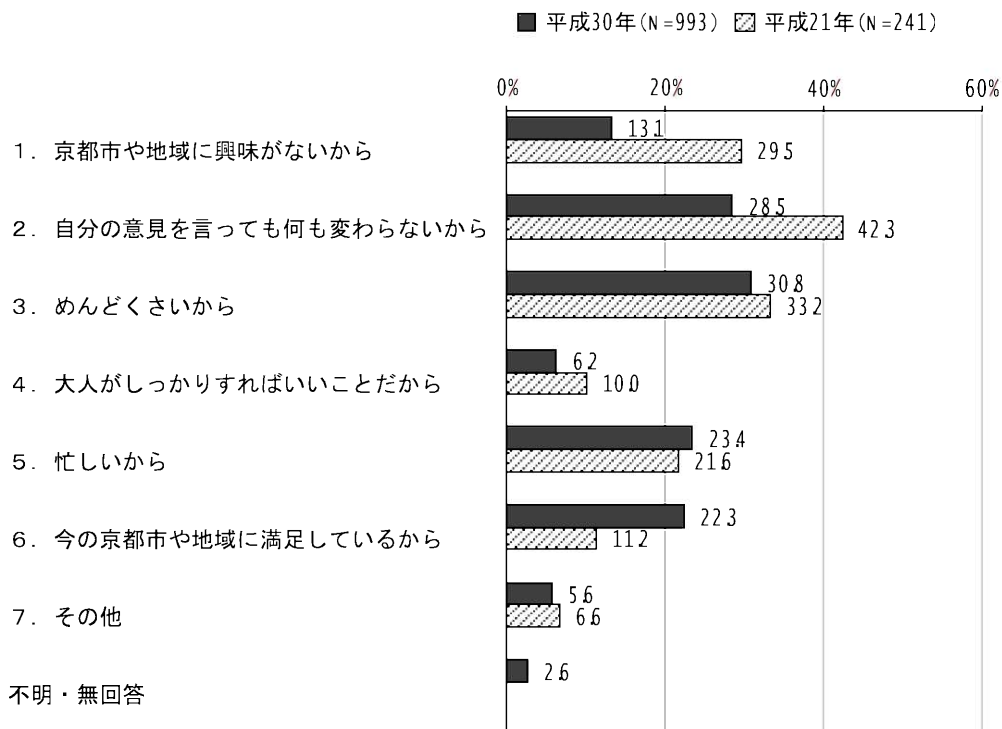
イ 意見表明の機会へ参加したいと思う理由（問 46(2)）

「京都市や地域を今より良くしたいから」が6割と最も高くなっています。



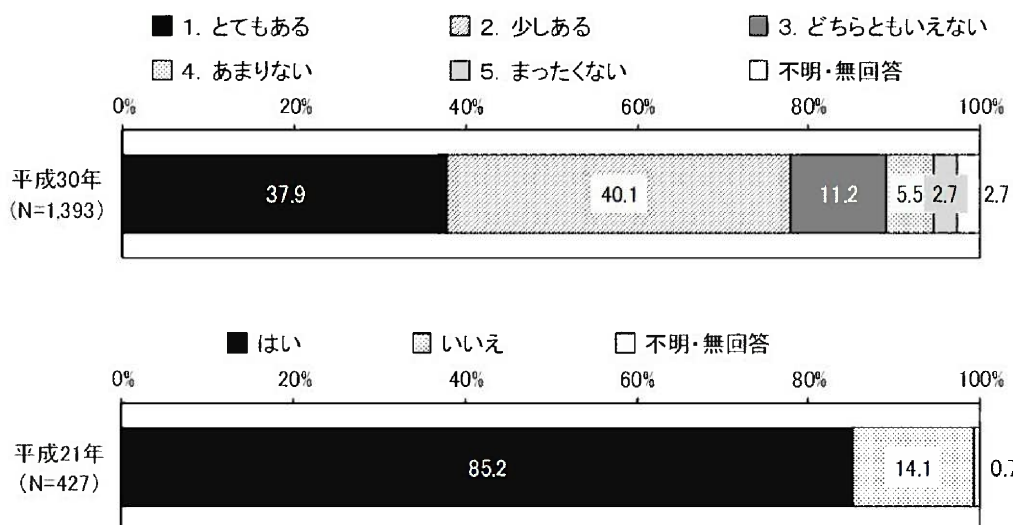
ウ 意見表明の機会へ参加したいと思わない理由（問 46(3)）

「めんどくさいから」が3割と最も高く、次いで「自分の意見を言っても何も変わらないから」，「忙しいから」が多く挙げられています。



エ 京都に対する愛着意識（問 47）

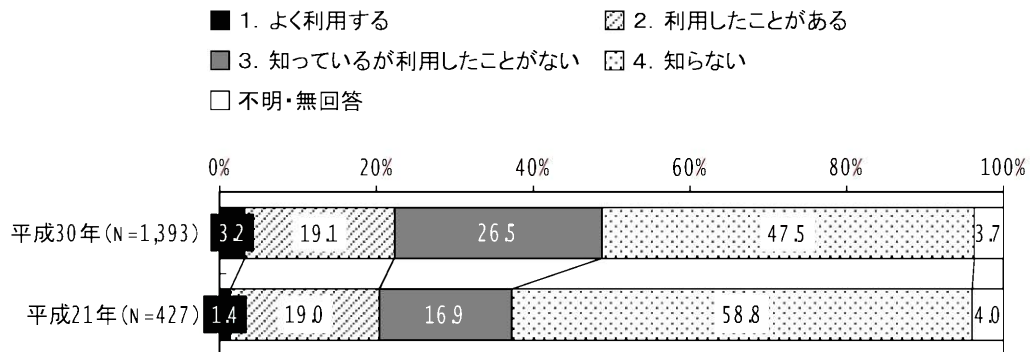
ある（「とてもある」と「少しある」の合計）が約8割，ない（「あまりない」と「まったくない」の合計）が約1割となっています。



(12) 子ども・若者を対象とした施設について

ア 京都市青少年活動センターの利用状況（問 49(1)）

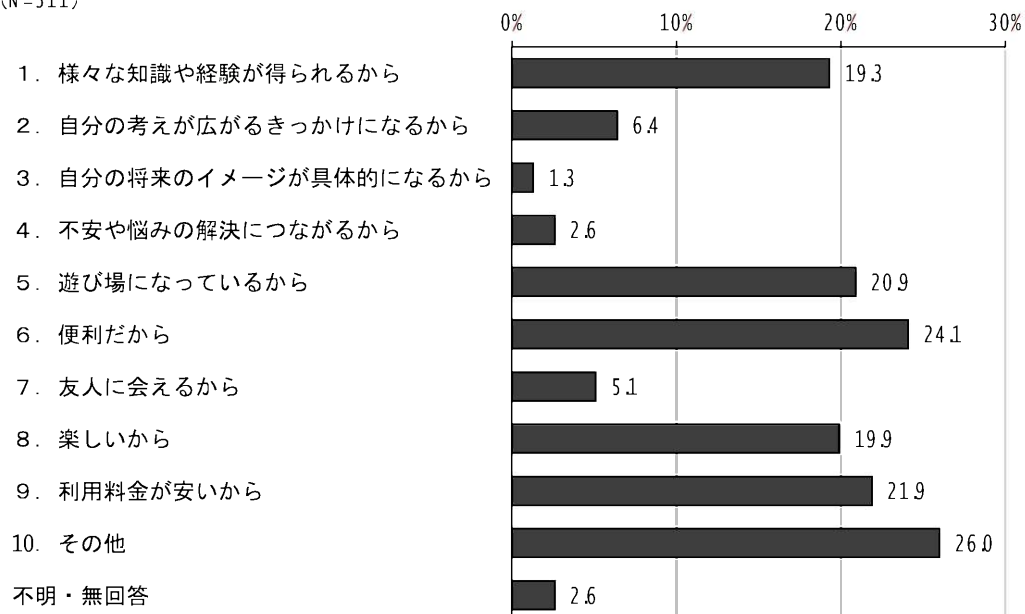
「知らない」が5割弱と最も高く、次いで「知っているが利用したことがない」が2割台半ば、「利用したことがある」が2割弱となっています。



イ 京都市青少年活動センターの利用理由（問 49(2)）

「その他」以外では、「便利だから」が最も高く、次いで「利用料金が安いから」、「遊び場になっているから」の順で多く挙げられています。

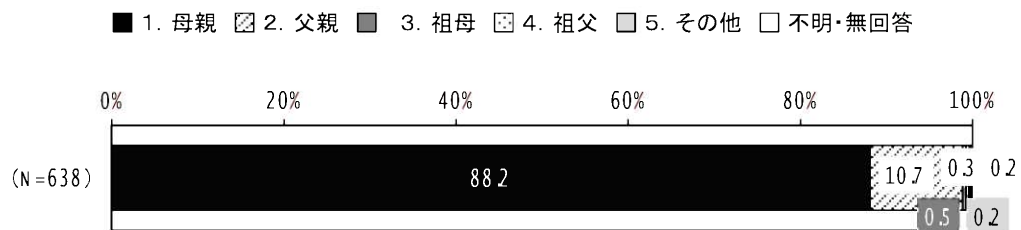
(N=311)



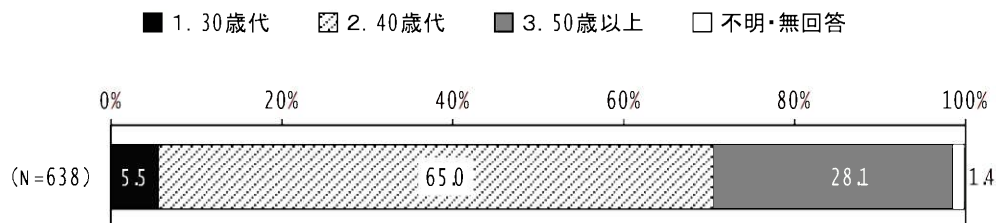
3 主な調査結果（保護者を対象とした調査の結果）

(1) 回答者について

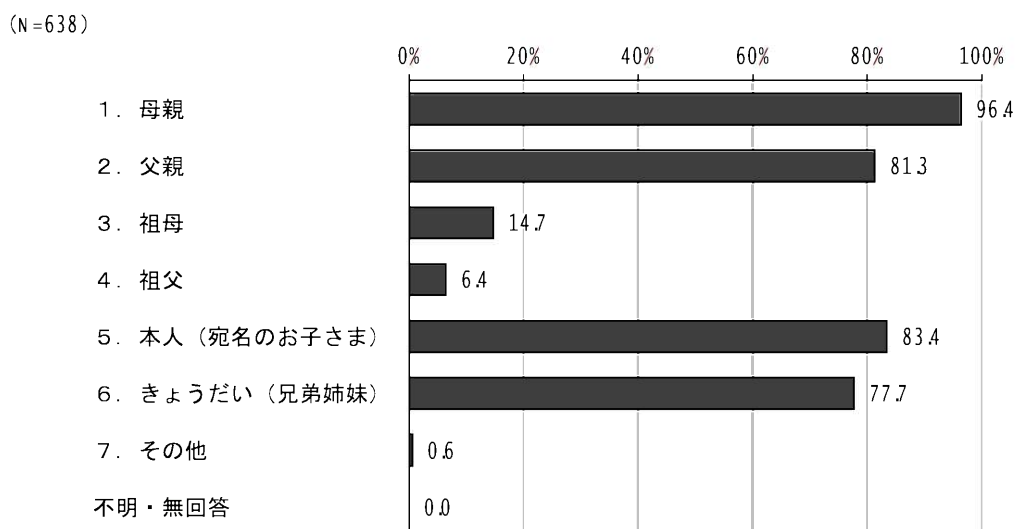
ア 回答者について（お子さまから見た関係）（問 1）



イ 回答者の年齢（問 2）

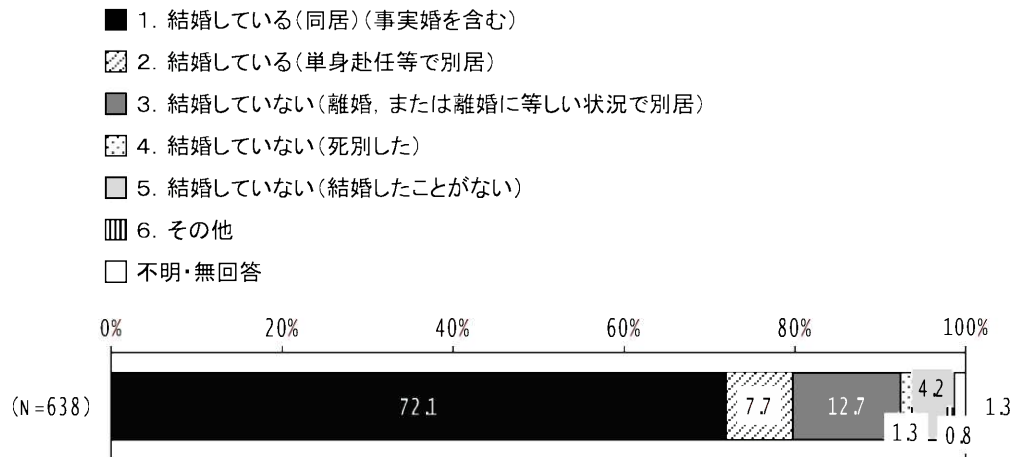


ウ 世帯構成（問 3）



エ お子さまの両親の婚姻状況（問 4）

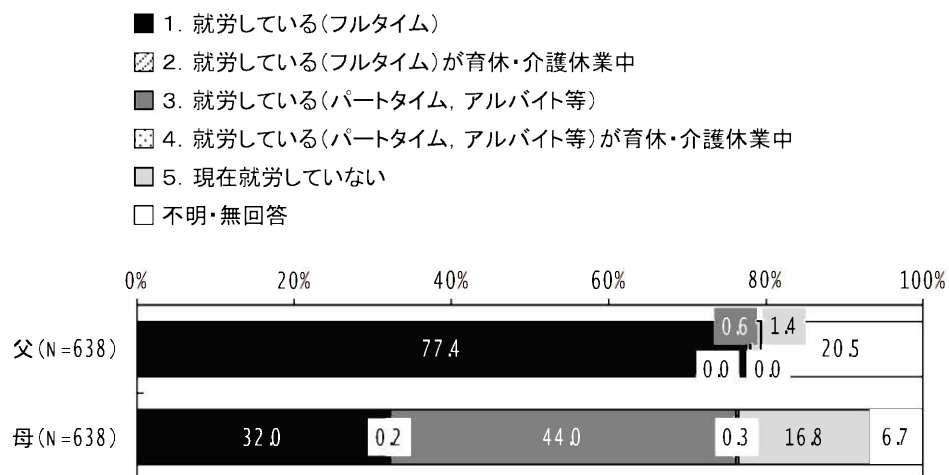
「結婚している（同居）（事実婚を含む）」が7割と最も高く、次いで「結婚していない（離婚，または離婚に等しい状況で別居）」，「結婚している（単身赴任等で別居）」の順で多く挙げられています。



オ お子さまの父親，母親の現在の就労状況（問 5）

父親では，「就労している（フルタイム）」が約8割と最も高くなっています。

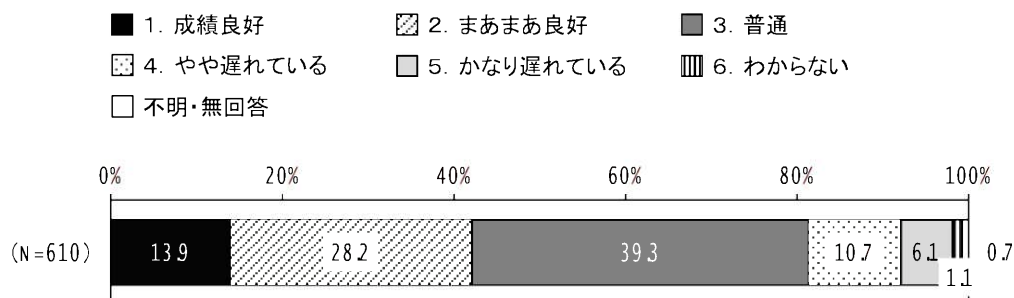
母親では，「就労している（パートタイム，アルバイト等）」が4割台半ばと最も高く，次いで「就労している（フルタイム）」，「現在就労していない」の順で多く挙げられています。



(2) お子さまについて

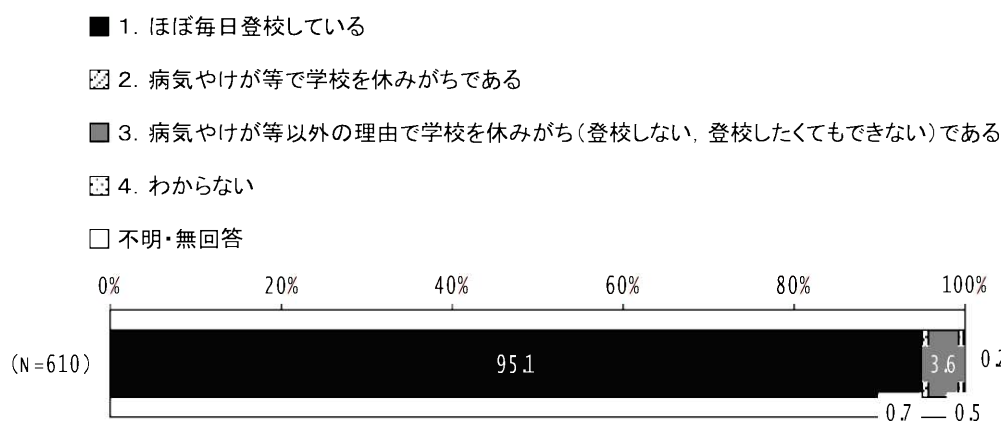
ア 学校での勉強の成績について（問 6）

「普通」が約4割と最も高く、次いで「まあまあ良好」、「成績良好」の順で多く挙げられています。



イ 登校状況について（問 7）

「ほぼ毎日登校している」が9割台半ばと最も高くなっています。



ウ 成績と登校状況について（問 6：問 7）

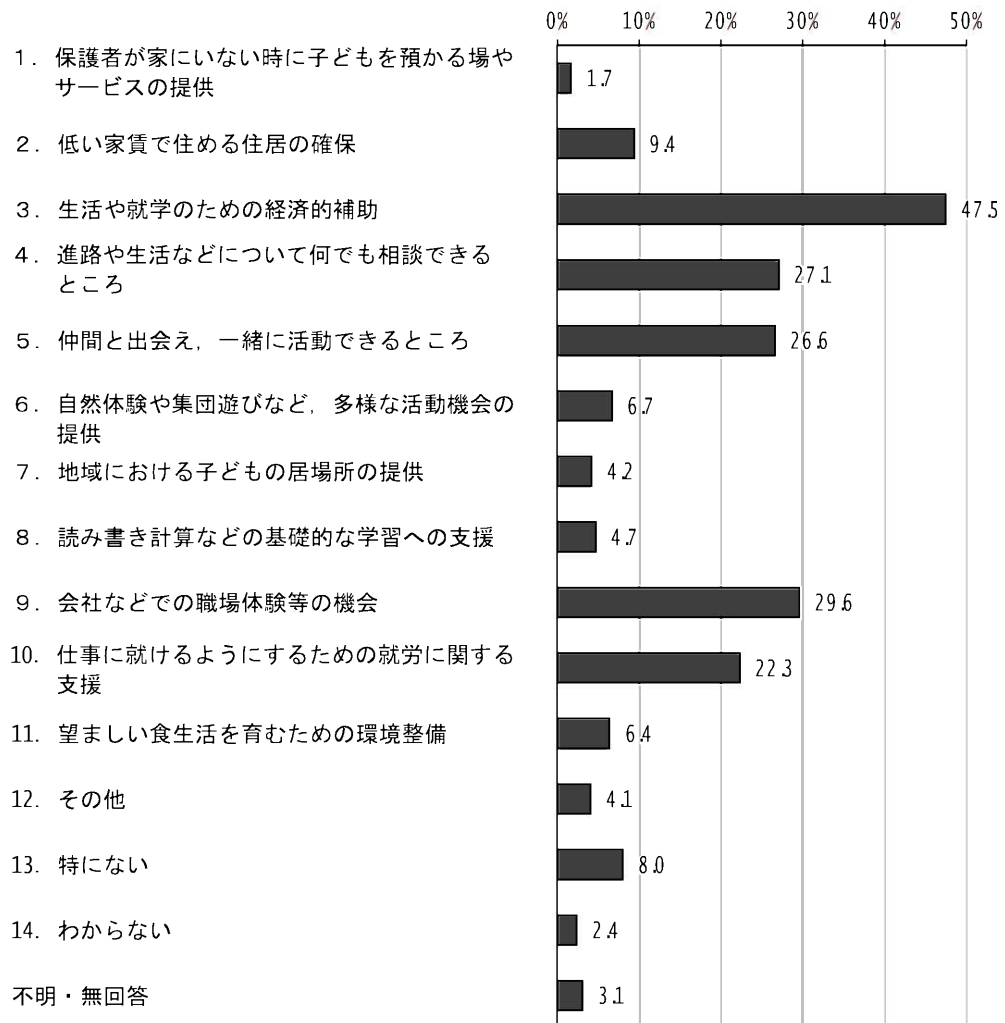
「ほぼ毎日登校している」、「病気やけが等で学校を休みがちである」では、「普通」の割合が最も高く、「病気やけが等以外の理由で学校を休みがちである」では、「かなり遅れている」の割合が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%		合計	成績良好	まあまあ良好	普通	やや遅れている	かなり遅れている	わからない	不明・無回答
全 体		610 100.0	85 13.9	172 28.2	240 39.3	65 10.7	37 6.1	7 1.1	4 0.7
子どもの登校状況	ほぼ毎日登校している	580 100.0	84 14.5	171 29.5	234 40.3	60 10.3	26 4.5	1 0.2	4 0.7
	病気やけが等で学校を休みがちである	4 100.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
	病気やけが等以外の理由で学校を休みがち（登校しない、登校したくてもできない）である	22 100.0	1 4.5	1 4.5	3 13.6	2 9.1	10 45.5	5 22.7	0 0.0
	わからない	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0

エ 充実を望む支援策について（問 10）

「生活や就学のための経済的補助」が約5割と最も高く、次いで「会社などでの職場体験等の機会」，「進路や生活などについて何でも相談できる場所」の順で多く挙げられています。

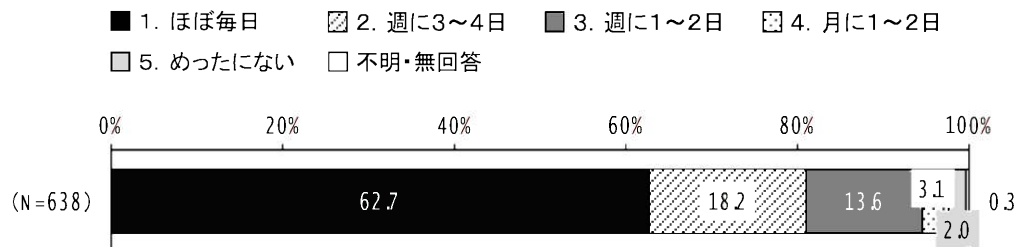
(N=638)



(3) 家庭や暮らしの状況について

ア お子さまと学校や仕事などの生活状況について話をする機会（問 11）

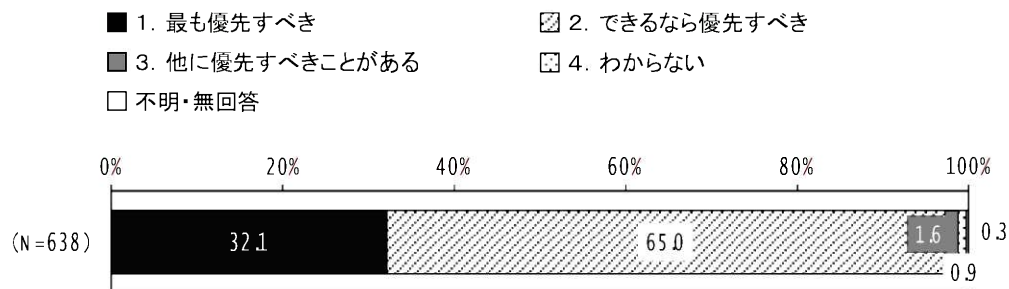
「ほぼ毎日」が6割と最も高く、次いで「週に3～4日」，「週に1～2日」の順で多く挙げられています。



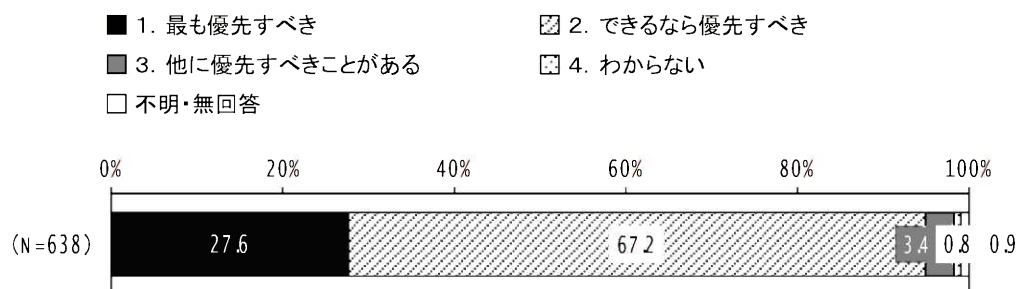
イ 子育てにかかる時間・お金の優先度（問 12）

時間・お金ともに，「最も優先すべき」と「できるなら優先すべき」の合計が，9割前後を占めている。

《時間》



《お金》

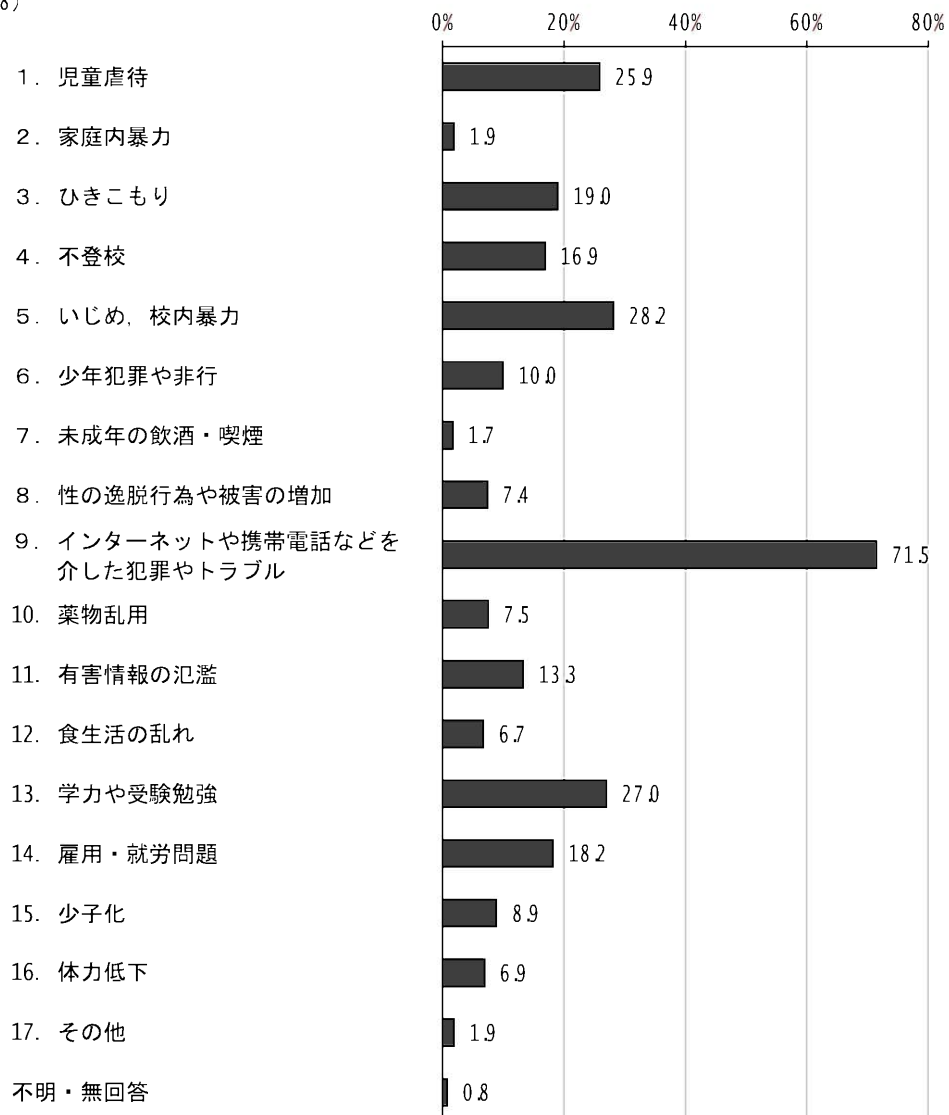


(4) 青少年施策全般について

ア 最近の青少年を取り巻く問題で関心のあること（問 15）

「インターネットや携帯電話などを介した犯罪やトラブル」が7割と最も高く、次いで「いじめ、校内暴力」，「学力や受験勉強」が多く挙げられています。

(N=638)



イ 行政の取組や、社会制度のあり方について、特に望むこと（問 16）

「子育て世帯に対する経済的支援について」が3割台半ばと最も高く、次いで「若者の就職・就労について」，「学校に関することについて」の順で多く挙げられています。

